

第18回 DAAS運営委員会

□日 時：2011年9月16日（金） 午後2時～3時30分

□場 所：星陵会館 1階会議室

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-16-2

TEL 03(3581)5650

□議 案：

[承認事項]

議案1 第6期総会資料の確認と承認の件 <資料 1>

[検討事項]

運営委員長選任の件 <資料 2>

[報告事項]

UIA2011 TOKYO 大会での DAAS イベント企画について <資料 3>

事務局作業事務所について <資料 4>

配付資料

<資料 1> 第6期総会資料

<資料 2> 運営委員会規約等

<資料 3> UIA2011 TOKYO 大会 DAAS イベント

<資料 4> 作業事務所案内

2010年9月16日
DAAS 事務局

DAAS 事務局 墨田区作業場所についてのご案内

DAAS の事務局については、これまで、財団法人ベターリビングに事務局業務を委託し、2010年6月より千代田区平河町の事務所に移転しておりますが、補助金事業の資金投入時は同ビル内で部屋の移転を行うなど、費用と人員に応じて、事務所面積の拡大、縮小等に対応しております。第6期からは同平河町のオフィスの住所を残しつつ、作業場所を墨田区に移転し、作業場所の拡大と経費削減を図りたいと思います。また同施設は社会起業家の創業支援体制が整備されており第6期以降の収入事業の検討や、法人格取得についての支援体制が強化されることとなります。

移 転 日：2011年10月1日（土）

新 住 所：東京都墨田区本所 3-15-5

ソーシャルインキュベーションオフィス SUMIDA 内 309号



建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

第6期(2011-2012年度)総会

開催日時 2011年10月24日(月) 14:00~15:30
開催場所 都道府県会館 4階 410会議室

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム(DAAS)

第6期(2011-2012年度)総会次第

開催日時: 2011年10月24日(月) 14:00~15:30

開催場所: 都道府県会館 4階 410会議室

1 開会挨拶

鈴木博之 建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム 理事長

2 来賓挨拶

井上俊之 国土交通省 大臣官房審議官

3 議 事

議案1 第5期(2010-2011年度)事業報告及び収支決算について

資料1 第5期(2010-2011年度)事業報告

資料2 第5期(2010-2011年度)収支決算

監査報告

資料 監査報告書

議案2 第6期(2011-2012年度)事業計画及び収支予算について

資料 第6期(2011-2012年度)事業計画

資料 第6期(2011-2012年度)収支予算

議案3 理事・監事名簿変更の件

資料 理事・監事名簿

4 報 告

資料 会員名簿変更について

資料 規約第7条第4項に基づく指定代表者の変更について

5 閉 会

議案1 第5期(2010-2011年度)事業報告
及び収支決算について

資料1 第5期(2010-2011年度)事業報告

資料2 第5期(2010-2011年度)収支決算

監査報告

資料3 監査報告書

第 5 期（2010-2011 年度）事業報告

1. 設立から第 5 期までの活動報告

2006 年 12 月の設立より第 5 期終了までの 4 年 9 ヶ月間をアーカイブ事業初動期として収蔵作品の拡充、基本システムの改善、運営体制の確立等、基盤整備に注力してきた。

設立より第 2 期は国土交通省が整備したアーカイブの管理、運営を行う組織の確立、閲覧者・利用者の拡大を図る広報活動や資料充実のための収蔵方法を検討し、第 3 期からは、コンテンツホルダーである写真家や会員の大手設計事務所 4 社へのヒアリングを行い、写真と図面資料収蔵を試験的に実施した。さらに、第 4 期からは他アーカイブとの連携、写真家、撮影会社、雑誌社等々への協力要請を行い、本格的な資料収蔵を開始。第 5 期末迄に設立当時の収蔵作品数に迫る資料収蔵を実現した。収蔵数拡大に伴い、Web サイトの大幅なデザイン改修や検索機能追加を進め、閲覧者の要望に応える機能改善を継続的に行っている。各期とも期初に設定した計画に沿い、確実にアーカイブの基盤を整備してきたといえよう。

初動期以降に新規事業への展開を図るためにも、収蔵資料の拡充と閲覧者・利用者の拡大が必須であると考え、デジタル化とデータ処理の費用を優先し、出来る限りの経費の節減を行いながら活動を進めてきた。地道なアーカイブ活動を進める一方で、アーカイブ事業自体が抱える問題点も顕在化してきている。建築関連業界だけでなく多くの人々が日本の優れた建築や、街並みの価値、その技術、文化の深さを理解し、資料を保全することについての重要性を感じているものの、権利者が多数介在し、権利調整のハードルが高く、交渉や調整に時間がかかること、情報整理やその方法を確立するまでに費やす資金が膨大にかかることが、アーカイブ事業が遅滞として進まない原因または必要な活動としての認知度・優先度があがらないという原因となっている。その結果、費用支援、人的支援も受けにくいという状況も作り出している。

そのような状況を改善する手段として、第 4 期より DAAS と他アーカイブとで相互の特長を活かした連携「オープンアーカイブ・アライアンス」を呼びかけ、金沢工業大学、JIA-KIT 建築アーカイヴスとアライアンスパートナーとしての活動を開始した。DAAS は「デジタル化による現物資料の保全」「レプリカ化された資料による活用範囲拡大」を推進するための役割を担い、JIA-KIT 建築アーカイヴスが保全する資料からデジタル化を優先する資料を選定し、950 点におよぶ原図・マクロフィルム等の図面資料のデジタルデータ化作業を行った。

初動期における活動の集大成を日本だけでなく海外に発信する機会として、第 5 期末の 9 月に開催された UIA2011 東京大会 第 24 回世界建築会議に於いて活動成果のまとめと意見交換のためのイベントを行った。表彰事業作品や街並み資料等を視聴するための PC やタブレット型機器類の展示を行い、新機能のルート検索のデモンストレーションを行うと共に、「デジタルアーカイブの可能性」という主題で収蔵された資料について

若手建築家や研究者がリレー形式でトークセッションを行った。その他、DAAS の寄付で制作された宮城大学の被災地のインタビューと写真を収録した電子書籍のタブレット型端末での展示や、首都大学渡邊研究室による被災地アーカイブコンテンツの展示等も同ブースにて行われた。このイベントの様子は、動画共有サービス ustream を利用しインターネット上でリアルタイム配信も行われた。

UIA2011 東京大会終了後の第 6 期より、管理費縮小と収入事業や新たな事業展開を図るため、墨田区の社会起業支援施設にも作業事務所を置くこととした。アーカイブ事業が担っている役割は「官」と「民」の狭間にあり、双方の協力により実現することを社会起業的事業として申請し、審査を通過したため同施設への入居が許可された。

今後も継続して利用者を拡大するため、Web サイトの運用と定期的な改善、新機能追加、サーバ等の管理体制の確保が必須であるが、設立当時に導入したサーバ機器類の入れ替え等の問題も第 6 期には現実的な課題として取り組む必要がある。

限られた費用と運営委員、事務局員等のボランティアな協力によって成り立っているコンソーシアムの活動は常に厳しい状況に置かれているといえる。

しかし本年 3 月の震災の発生により、復興や防災などにおいても歴史的な資料の蓄積の重要性が見直されることと思われる。またその資料を多くの人々へ情報提供し、同時に意見交換が行われる共有の場が必要となり、Web サイト上で展開するアーカイブ活動が担う役割も増えるものと考えられる。そのためにも、アーカイブ事業の周知、協力体制の確立は、今後も継続して取り組んでいきたい。

2. 事業報告

(1) コンテンツの整備

UIA2011 東京大会に向けた第 4 期からの 2 ヶ年計画で資料総数 10,000 点を目標として収蔵活動を進めてきたが、第 4 期で 2,500 点、第 5 期で約 3,000 点の収蔵を実現した。この資料数には、JIA-KIT 建築アーカイヴスとのアライアンスによる図面資料も含んでおり、2 カ年でデジタル化した図面資料は 1,100 点を超えた。設立当時の写真 6,000 点と合わせて総数 11,000 点の図面、写真資料を収蔵するアーカイブに成長した。資料拡充と UIA2011 東京大会での広報に比重をおいたため、新規のインタビュービデオコンテンツの制作は第 6 期事業へ先送りとなった。

① 写真家及び出版社への資料収蔵協力

第 4 期の表彰作品収蔵事業で写真家より寄せられた意見を元に、第 5 期は個人写真家が多く所属する日本建築写真家協会に協力要請を行った。その結果、同協会会員の写真家が撮影した約 500 点の提供を受けた。また、第 4 期と同様に写真撮影会社エスエス社、並びに新建築社からも資料提供を受けた。今後も継続した協力体制を確立する成果となった。

② 動画収録

第5期事業では写真家の動画収録を予定し、ワーキンググループより写真家への協力依頼を行っていたが第5期以内での撮影には至らなかった。

UIA 2011東京大会に向けて、これまで収録した建築家インタビュービデオの英文化の必要が委員会において指摘されたが、第5期に制作された内田祥哉氏、池田武邦氏のインタビュービデオについては、東京大学の研究室の協力により英語字幕版の制作が完了しUIA2011東京大会で紹介するコンテンツに追加された。英文化されたビデオは海外の展示等での活用が期待される。

③ 収蔵作品の解説等の掲載

UIA2011 東京大会での DAAS イベント企画として「デジタルアーカイブの可能性：3.11以降の日本の景観*都市*建築のあり方を若手建築家、研究者が提言する」というタイトルでリレートークセッションを行った。DAASの資料とアーカイブの可能性について、6名の登壇者がリレー形式で出演し、当日の様子は動画共有サービス ustream でリアルタイムに配信された。同イベントは DAAS-Web サイトにも掲載し、収蔵作品の解説コンテンツとして閲覧可能となる予定である。

④ 第4回デジタル卒業設計大賞の実施。

第4回目となるデジタル卒業設計大賞を実施した。Webサイト形式での募集ということで応募作品が十数点となり、そのうち実際の選考条件を満たす作品は10作品に止まった。その中から4点を選考し、受賞者を懇親会に招待した。懇親会は早稲田大学古谷研究室にて行われ、各受賞者からのプレゼンテーションと古谷理事、三塩運営委員長からの講評の後、各受賞者に賞状が授与された。さらに「デジタル卒業設計大賞 古谷賞」の1名が選出され古谷理事より副賞が授与された。

⑤ 国土交通省補助事業の活用によるコンテンツ整備

国土交通省補助金事業として第4期より行っている建築関連団体の表彰受賞作品、並びに街並み資料の収蔵事業は、第5期も継続して行った。これにより第5期だけでも約3,000点の資料が追加された。2カ年の事業として約5,500点の資料が収蔵され大きな成果となった。

⑥ 住宅団地・まちなみ等に関するコンテンツ整備

前述の国土交通省補助金事業の事業で、JIA-KIT 建築アーカイブスからも協力を得て、同アーカイブスが所有するまちなみ図面のデジタル化を行った。第5期の図面資料追加は約100点となり2カ年での資料総計は約700点となった。

⑦ JIA-KIT 建築アーカイブスとのアライアンス（デジタル化収蔵と資料公開）

JIA-KIT 建築アーカイブスは第4期から実際にアライアンスパートナーとしての活動を進めている。JIA-KIT 建築アーカイブスが実物保全している前述のまちなみ関連資料だけでなく DAAS が既に収蔵している建築作品の関連資料、表彰受賞作品の資料について提供協力が得られデジタル化作業を行った。また、社団法人日本建築家協会の表彰事業である環境建築賞のプレゼンテーション資料が JIA-KIT 建築アーカイブスを通して提供され、DAAS-Web サイト上での資料公開作業がすすめられている。

今後、権利者自身による保存が困難な現物資料の提供の申し出があれば、内容を精査した上で DAAS でのデジタル化収蔵を行うとともに、アライアンスを組む JIA-KIT 建築アーカイブスの紹介と収蔵が行えるよう、協力体制を確立していく。

(2) Web サイトの改善

表彰事業の収蔵数の拡大に伴い、Web サイトの検索機能の向上を図るメタ情報の項目追加を行った。また、建築情報や関連情報のデータ処理を簡便に行うための管理機能改修も継続的に進めた。

英語サイトが本格的に始動し、英文情報も随時追加されている。現在地または指定した場所から、目的とする建築作品までのルート検索機能が追加され、閲覧者が、実際に建築作品を訪れる際に利用できる新機能が実装された。この機能はモバイルサイト、タブレット用サイトでの利用を視野にいれた機能追加である。

また、バイノーラル録音などの音声コンテンツの収蔵も検討し、試作を行った。地図検索機能と音声コンテンツを連動して「建築ガイド」のコンテンツ制作を検討している。

管理機能面は、これまで Web 制作会社や専門的な人員が必要であったニュースの更新、建築情報の追加、訂正、ビデオインタビューなどのコンテンツの掲載が簡便に行えるよう変更された。

(3) 法人化準備 事務局体制の整備

第4期後期には、ベターリビングの移転と移転先の床面積の縮小に伴い、同財団内に置いていた事務局を千代田区平河町に移転した。委託契約について見直しを行い、常勤職員の雇用のみを残し、経費削減と機動的な事業の実施を図った。また2カ年計画の表彰作品収蔵事業完了後に法人格を取得することを目指す方針を委員会で示した。第6期より、作業事務所を墨田区の社会起業支援施設に移すことで、さらなる経費削減を行い、新規収入事業等の具体化にむけた支援と法人格取得にむけての必要な手続きや支援体制を整えた。

(4) 会員向けサービスの強化、事業費の確保

会員向けサービスとして、会員自身による資料提供機能、情報修正機能を検討している。コンテンツホルダーの入会を見込み、資料提供者用ページ（ポートフォリオ機能）の作成、資料保全のためのサーバ貸出等、意見を集約し実現可能なサービスと Web 機能追加項目の整理を行っている。会員拡大としては、第 5 期より 1 団体が入会。データの有償利用については、森美術館、士会連合会、雑誌社、プラネタリウムの製造会社等の 4 社約 50 点の利用申込みをうけた。

(5) DAAS の広報・実空間展示等の企画立案

会員団体が主催する全国大会での展示、デモンストレーションを実施した。また UIA2011 東京大会において「デジタルアーカイブの可能性」というタイトルのトークセッションや、DAAS-Web サイトの紹介展示、アーカイブ活動を行う大学と合同で展示を行った。

DAAS の『UIA2011 東京大会』での活動並びに第6期活動展開について

■ UIA における活動目的について

当初『DAAS』の周知を図る意味で、広報活動に軸足を置き、URL の表示ならびに広報映像の投影、PC 設置による操作体験などを考えていた。しかし、3.11 東日本大震災を踏まえた、東京大会の新たなテーマにも応えられるような展示活動に修正する方針とした。

■ 第6期にむけての DAAS コンテンツの方向

DAAS は、今秋に第5期を終了する。アーカイブとしての資料収蔵の一定規模を確立させることと、Web を使った検索システムなどの仕組みも整ったと考えている。そこで、第6期以降の活動の方向性を見極め、次へ展開させる必要がある。

■ Web サイト上での活動として将来性のある活用の仕方を模索する。

これまでに収蔵、制作してきた『保全』対象の画像、動画コンテンツから、『活用』を目的としたコンテンツ、閲覧者や利用者が『投稿可能』なウェブサイトのある方を考えていきたい。

これまでに収蔵をしてきた、写真家、設計者、雑誌社、企業等々が著作権を保有する『保全すべき資料』『DAAS の Web サイトでのみ公開可能』とするコンテンツとは切り分けをし、第6期以降は『参加型』『公開型』コンテンツ他のサイトとの『引用』『連携』が可能となるコンテンツ、アップロード作業の即応性を高めたコンテンツを制作する方向への展開を考える。

■ 今後の方針を見据えた上での UIA2011 東京大会における活動展示（案）

すでに収蔵された写真資料等に加え、震災エリアの取材映像を元に「景観」の今昔や今後どのように立て直すのかをその場で議論（対談形式）し、その様子をその場で Web 上にアップする、という作業工程を見せながら、聴衆や大

会参加者の持参しているツール（パソコン、iPad、iPhone など）において Web 観戦、参加できるイベントを開催したい。展示ブースとしては、ラジオのサテライトスタジオ的な雰囲気想定している。震災後の取材映像やコンテンツは今後も増え続けると思われるが、DAAS が、このような歴史的な重要性をもつ情報を公開するプラットフォームになることも志向している。可能であれば震災前の画像や映像も収蔵に加え、対比させながら DAAS の主旨である景観や都市デザインの考察に役立つ資料の集積としていきたい。現在 UIA 東京大会の DAAS の活動展示については、東京国際フォーラムガラスホール棟 B1F のロビーギャラリー部分で行う予定である。(9/28 全日) スクリーン映写+数十脚のイス席のシンポジウム等の会場として使用できる様を依頼しているところである。

■ 『景観』取材映像について

場所情報を伴った声、写真、動画、絵（スケッチ）などが考えられる。情報の形式にとらわれず、多様なコンテンツが Web 上で閲覧できる様、Web サイトの改修に必要な内容、デザインを検討し実装する。必要であれば DAAS コンテンツの閲覧のための他の媒体でのアプリなどのインタラクティブな手法を作成し、若い世代への浸透や国際的な展開を考える。

WEB 掲載用パンフレット

UIA2011東京大会 関連イベント

デジタルアーカイブの可能性 Future of Digital Archive

2011.9.28(水)10:30～ 東京国際フォーラム ガラス棟B1階 ロビーギャラリー

トークセッション

 3.11以降の日本の景観*都市*建築のあり方を
若手建築家、研究者が提言する

 Session 1 11:00-12:00
本江正茂×赤松佳珠子

 Session 2 12:00-13:00
赤松佳珠子×磯達雄

 Session 3 13:00-14:00
磯達雄×渡邊英徳

 Session 4 14:00-15:00
渡邊英徳×大山顕

 Session 5 15:00-16:00
大山顕×倉方俊輔

 Session 6 16:00-17:00
倉方俊輔×本江正茂

展示プログラム

DAAS*アーキエイド*宮城大学*首都大学東京

DAAS Webサイト

 宮城被災地レポート
(アーキエイドプロジェクト)
資料検索システム

宮城大学中田研究室

 声の伝承プロジェクト
A Book for Our Future 311
DECADE

首都大学東京渡邊英徳研究室

 被災地フォトオーバーレイ
ヒロシマ・アーカイブ
Nagasaki Archive


本江正茂

 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻准教授
せんだいスクール・オブ・デザイン校長
博士(環境学)
1966年 富山県生まれ
1993年 東京大学大学院工学系研究科博士課程中退
著書『プロジェクトブック』(彰国社、共著、2005年)
『OfficeUrbanism』(新建築、共著、2003年)等


赤松佳珠子

 CAatパートナー
日本工業大学、日本女子大学、法政大学、神戸芸術工
科大学非常勤講師
1968年 東京都生まれ
1990年 日本女子大学家政学部住居学校卒業
シーラカンズに加わる
2002年 CAatパートナー
2005年 CAat(C+Aトウキョウ)に改組


磯達雄

 建築ジャーナリスト
編集事務所フリックススタジオ共同主宰
桑沢デザイン研究所非常勤講師
武蔵野美術大学非常勤講師


渡邊英徳

 情報アーキテクト、デジタル地球儀や仮想世界サービス
を応用した情報アーキテクチャのデザイン、アート&エ
ンターテインメントを研究
1996年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
1998年 同大学院修士課程修了
2001年 株式会社フオン代表取締役社長(現スーパーバイ
ザー兼取締役)
2008年 首都大学東京システムデザイン学部准教授
2010年 同大学院システムデザイン研究科准教授


大山顕

 1972年 生まれ
1996年 団地写真を4×5で撮影、ウェブサイトで発表開始
写真集『団地の見聞』(2008年 東京書籍)、『団地さん』(2008
年エンターブレイン)の出版のほか、写真展やトークイベ
ントなどを行う。NHK BS2『熱中時間』のレギュラーもつとめ、
テレビ、ラジオ等への出演多数


倉方俊輔

 建築史家、大阪市立大学大学院工学研究科准教授
1971年 東京都生まれ
早稲田大学大学院博士課程満期退学 博士(工学)
著書に『吉阪隆正とル・コルビュジエ』(王国社)
共著に『建築家の読書術』(TOTO出版)
『東京建築ガイドマップ』(エクスタレッジ)
『伊東忠太を知っていますか』(王国社)ほか


坂本和子:総合司会

 東京都生まれ
武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
コロムビア大学GSAPP修士課程修了
磯崎新アトリエ、プラネットワークスでの勤務を経て独立
設計業務の他、武蔵野美術大学 京都造形芸術大学で非常
勤講師を務める

USTREAM配信: MOSAKI

主催: 建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム

2011年9月28日実施
DAAS事務局

UIA2011 東京大会 DAAS イベント トークセッション及び展示報告

2011年9月28日 UIA2011 東京大会本会場の東京国際フォーラムガラス棟ロビーギャラリーにおいて「デジタルアーカイブの可能性：Future of Digital Archive：3.11以降の日本の景観*都市*建築のあり方を若手建築家、研究者が提言する」という題名でイベントを開催した。

一般の方が閲覧可能なオープンなスペースにて行われたこのイベントは、第5期までに実施した表彰事業やまちなみ資料収蔵の成果の展示と、コンテンツやアーカイブの今後の可能性についてのトークセッションをメインとして、その他アーカイブの活動紹介やデモンストレーションが同ブース内の展示エリアで行われた。国内外からの閲覧者、参加者が終日途切れることなく訪れ、盛況なイベントとなった。

トークセッションは各1時間程度、全6回が行われ、その模様は Web の映像配信サービス **ustream** でライブ配信された。また、オンラインでメッセージを交わすサービス「**twitter**」との連動で会場以外の閲覧者からの投稿も行われながら進められた。イベントの様子を収録した動画データは DAAS-Web サイトに掲載する予定である。

トークセッションは、都市建築デザイン、IT コミュニケーションデザイン、建築家、ジャーナリスト、情報アーキテクト、愛好家、建築史家等によって進められ、それぞれの専門分野から「アーカイブとは何か」の問題提起から始まり、これからの資料収集と公開のあり方、貴重な資料の利活用について、多様な建設的意見が議論され、今後のアーカイブの活動や活動の連携、その可能性について様々な場面が立ち上がることが期待されるセッションとなった。以下はトークセッションの一部をまとめたものである。

<当日の設営の様子>



UIA2011 東京大会関連イベント トークセッション 実施報告

【本江正茂(東北大学准教授)×赤松佳珠子 (CAat パートナー)】



DAAS の問題点「重い」(検索結果の表示時間の問題)「少ない」(資料ストックのバラつき)「漏れる」(検索キーワードの問題)といったユーザーの視点からの批判はありがちではあるが、それはアーカイブを育てる態度ではない、と本江氏は指摘する。ユーザーとアーカイブ提供者が二分するのではなく、補完しあう方がよいのではないかと。これが本江氏の本題である。

記録をするのが record、再生が play。記録されたものをどのように play するか、というのがアーカイブのデザインである。ユーザーと提供者の二者間だけでなく、そのベクトルは多様な方向に向かう可能性がある。つまり「情報を集め」「記録」し「保存」してあれば「アーカイブである」と思われがちだが「それをどう使うのか」「そこから何を取り出すのか」というアイデアが大切だと語る。

建築はそれ自体がモニュメントであるがそれは容易に失われる。震災で様々な人が「アーカイブを作ろう」「モニュメント残そう」と言う意見があったが、それについて考え直す機会を作りたいと思っていた。デジタルアーカイブには形なき後のモニュメント、記憶を預ける装置としての存在意義も求められる、と話す。「DAAS へのお願い」と題し「サーバーの安定化」「データの拡充」「コミットメントのデザイン」「不意打ち(狙った検索項目以外の情報との意外な出会いの機会)」を挙げ、さらにマッシュアップ項目として、画像以外にも「映像」「テキスト」「タイムスタンプ」「ライフログ」「BIM データ」のストックが求められる、と語った。赤松氏は「DAAS が DAAS で終わる必要はない。誰のためのストックか、どう活用するものか、という階層が明確になることも大切だと思う」と語った。

赤松氏が話し手となった対談では「ビデオアーカイブ」が残すものについて語られた。

【磯達雄氏(建築ジャーナリスト)×渡邊英徳氏(首都大学東京教授)】



「3.11があつて東北のことが心配だった、同時に建築のことが心配だった。そのひとつが岩手県の旧田老町にあった国民宿舎、三王閣。震災の折り、人々の役に立っていればと思つたが、今回を機に調べてみたら、すでに解体されていた。解体前の見学会まで行われていたとのことで悔やまれた。この建築を好きな人に、建築にまつわるお知らせが届けば良いと感じた。同時に、きちんと記録が残されていて欲しい。もう一つ、都城市民会館に行く機会に立ち寄つた「西都原考古資料館(資料提供 DAAS)」。新建築の表紙にもなつた建築だが、これもすでに建て替えられ形を変えていた。しかし石碑として記録が残されていたことに、有り難く感じた。」

3.11にまつわるエピソードから特撮物に話は展開する。ウルトラQで1966年に放映された宣伝用ビデオはモノクロの映像だったが、色をつけたリマスターがDVD化されている。怪獣が街を破壊するシーンは丸の内。壊された建物は架空の物のようだが、背景には実際にあつたリーダーズダイジェストや改修前の丸ビル、第一生命館などが映っている。ストーリーから位置を推測して、どこでロケが行われたかを特定するまでの経緯などを、地図を示しながら説明。そしてこのフィルムが当時の建築や街について調べる資料としても機能していること、建築のアーカイブもまた、こうしたファンの役に立つことができるのではないかと語る。都内では現在も名建築と呼ばれた建物が、残される計画もないまま次々に壊されようとしている。記録は簡単に制作されるようになったが、それを残すつもりで作成する、という感覚は薄れている感がある、と語る。「専門的な情報は、一般の人にはどうでも良い場合もある。(ロケ地などとして)ポップカルチャー、サブカルチャーのストーリーに建築の情報が付加できるとき、関心を持って語られていくのではないかと提案する。両者をつなげるライナーノーツ(解説文)のようなものが、建築にも必要。それがデジタルアーカイブのひとつの役割なのではないかと語つた。渡邊氏が話し手となつた対談では、Google Earthを利用した首都大学の研究成果、ヒロシマ・アーカイブなどについて語られた。

【大山顕氏(団地愛好家/ライター)×倉方俊輔氏(建築史家/大阪市立大学准教授)】



会社員であった大山氏は、団地を愛するという視点で写真を撮り続け、ネットを中心に公開しはじめたことをきっかけに注目を集めている。同時に出版物の制作やイベント、写真展の開催、TVへの出演等を行っている。プレゼンテーションはまず、愛好家(マニア)として「団地の見方」について機知に富む解説からはじまった。さらに全国で撮影を続けている工場や高架下、ジャンクションの紹介が続いた。

大山氏はアーカイブについて問いかける。自分のような愛好家が写真を撮りウェブ上に掲載している現代において、その写真と DAAS の写真との差は何か。愛好家の写真はアーカイブになり得ないのか。それに対し、倉方氏は新建築社が撮ってきたような写真と一般の人々がブログに掲載する写真との差は明らかに大きいと、大山氏のような視点で撮影された写真は、モノを見る目が備わっていると応える。また大山氏は、いつの間にか「アーカイブの作法=アーカイブとしてきちんと整える」といったものがあり、そのためか DAAS を閲覧したことをきっかけに現地へ行ってみようと思うことはほとんどないが愛好家がつくるレポートは、そこへ行ってみたいと思わせる。その差は何かと問いかける。

終盤では東日本大震災をきっかけとした帰宅難民のルートログの制作と日本橋の話題へと展開する。日本橋の首都高は、埋める方向の話もあるが「首都高二十年史」を見ると、日本橋の写真と当時つくっていた人々が、これからの日本の成長を憂い、その橋に込めた強い想いが読み取れる。そして震災後も残る首都高と日本橋のこの姿がいかに奇跡的な風景であることか、改めて気づき、過去のアーカイブ写真は、振り返ると新しい発見をすることができる、と語る。

本来アーカイブとは未来の人々が宝と想うかも知れないものを「図」も「地」もそのままの状態をストックすべき。だからこそ、専門家だけではなく、限りなく作為をなくした形で、大山氏のように無心に「図」も「地」も横断することに意義があると倉方氏は加えた。最後に大山氏は、自らは次々とウェブ上に写真をあげ、願わくば、それらをもうひとつのアーカイブ、今の時代のアーカイブとして DAAS に扱ってもらえることができたらうれしいと語った。

【倉方俊輔氏（建築史家/大阪市立大学准教授）×本江正茂(東北大学准教授)】



倉方氏は、雑誌「日経アーキテクチュア」の連載で巡ってきた建物の紹介を中心にプレゼンを展開。この連載では、設計者も施工者も不明であるが、その背景などが感じられるもの、形として魅力的があるものなどの建物に注目する。有名なものだけではなく、無名な建物ものに踏み込んでみると、そこには新しい発見があるという。「海中展望塔：足摺海底館」や「ニュー新橋ビル」を題材に、その背景に潜む美的、都市的、歴史的エピソードを様々な角度から説明。これまで無名である建物に、実は見るべき「図」があると各作品を解説する。倉方氏が意識的に行うことは、前セッションの大山氏の取り組み方と、然程変わりがないという。そして、例え対象が有名建築家の設計による建物であっても、それを庶民のレベルから見ていきたいという。

本江氏は、倉方氏が専門的な眼差しを持ちつつ建物を取り上げ、そこから物語でつなぐ間をつくらうとしていることが重要なポイントだという。まさにその間をつくること、物語をつくるのが冒頭で述べ忘れたもうひとつの DAAS に足りないものと指摘した。アーカイブはそのままでは取りつく島がない。それぞれのアーカイブを使っていく有益なものにするためには、物語、つまり魅力的な話を付けていく人が必要である。

それが広義の歴史家としての仕事かもしれないと倉方氏は語る。歴史家だけが担保するものではないので、一般の人も加わってその物語を紡ぎ考え、そこから変換しさらに物語を膨らませる。そういう意味でも歴史家のアーカイブに対する役割も大きくなる。

語る言葉、物語は、過去の作品を再評価したときに生まれる、と倉方氏。その意味では現在の建築アーカイブには物語がないことは、やむをえないことでもあるが、その場合は、後世の人々に言葉や物語を語る行為を引き継いでいく面もあり得ると語った。

【終盤、登壇者よりトークセッションのまとめとして以下感想が述べられた】

(倉方) 今回の試みで6回の対話が繰り返されていく中で、そこで生まれた語り、さらに語りつがれていく工程が興味深い。その核となるものが資料や写真といったアーカイブということではないだろうか。

(本江) 真珠をつくるときに最初に入れる核のように、アーカイブにおいては正統性と持つ DAAS が核となる。そのために DAAS は、コアとなり周りにさまざまなものを付けていけるインターフェイスとサービスを持たなくては行けない。そこへ専門家もさまざまなコンテンツを加えていき、それらが B 級呼ばわりされることなく開かれていくのが望ましい。アーカイブというものは求心的な営みだと思われがちであるが、むしろそれが外へつながる力が必要である。そのためにもモザイクのガイドライン等をはじめとしたデジタルの形を整えたインターフェイスをつくる必要がある。これからのアーカイブは、外向けの力をつくることを意識し、我々がそのアーカイブに忘れてしまいがちな記憶をあずけていく。そういうシステムをみんなで作ってあげればいいと改めて感じている。

(渡邊) 誰でもデジタルアーカイブをつくれる時代になった。自身のアーカイブから言葉を紡げる、良い時代になったと言えよう。iPhone で自身の写真をめくり自分史を辿ることができる。言い換えると、人類の人数分のアーカイブが存在するという。さらにこれらのアーカイブに GPS 情報がついていれば、各土地のアーカイブを形成することができる。そこにストーリーが見えるとより人類は幸せになるのではないだろうか。

(大山) アーカイブは何であるか。さまざまな意見を通じ感じたことは、アーカイブそのものには語りが入らないということ。しかし、我々がアーカイブをテーマに語ったことは語りであった。アーカイブは我々を誘うものとして存在してほしい。



添付資料-2

2011年9月31日
DAAS 事務局

表彰作品資料収蔵事業についての報告

<収蔵数報告>

- 2010年～2011年3月迄の表彰作品収蔵対象件数 約1200作品
- 収蔵依頼数(電話連絡、資料送付) 200社/800作品
- 受領資料数 (490作品)約2,950枚

※2011年9月31日現在、引続き設計者からの写真提供、写真家との調整があるため、デジタル化作業を継続しております。

<収蔵内容について>

- 建築5団体以外の表彰作品で設計事務所より希望のあった作品も対象とした。
- JIA-KITアーカイブスが収蔵する図面、街並み資料を収蔵。(相田武文氏、川崎清氏受賞作品の図面。高橋志保彦氏表彰受賞の都市計画資料)
- DIK設計室、集工舎の表彰作品の図面資料を追加収蔵。
- 設計者からの写真受領以外に、エスエス社、日本建築写真家協会に表彰作品の該当資料の有無を確認し、各写真家から資料の提供を受けた。

<今後の作業日程>

- 写真資料返却 2011年5月末完了
- デジタルデータの最終納品 2011年6月上旬完了
- 関係者へのtestページ送付 2011年9月現在継続中
- 新規WEBサイトでの公開作業 2011年9月現在継続中

2011年5月20日運営委員会資料
DAAS事務局

デジタル卒業設計大賞懇親会報告

デジタル卒業設計大賞 2010 は、2010 年春までに大学を卒業、大学院を修了した人を対象に昨年秋に募集を行いました。今回は 10 作品の応募（内海外在住の方からの応募が 2 名）があり、その中から以下の 4 作品を今回の受賞者として選出いたしました。

また、3月31日に審査委員長である古谷誠章先生ご同席のもと懇親会を開催し、賞の授与を行いました。受賞者の中よりさらに1名を古谷賞として選出し副賞を授与いたしました。

会場の都合上、一般に公開はいたしませんでしたが、懇親会の様子は後日 DAAS ウェブ「デジタル卒業設計大賞 2010 懇親会」として動画をウェブサイトに掲載いたします。

会 場： 早稲田大学理工学部

日 時： 2011年3月31日（木） 15:00 から

審査員： 古谷誠章氏 （DAAS 理事・建築家・早稲田大学教授）

入賞者： 百田智美 「HAJIKI」
京都造形芸術大学通信教育部建築デザインコース卒業
<http://momoda-tomomi.6.ql.bz/index.html>

竹内吉彦 「張りぼてと対」
東京理科大学理工学部建築学科小嶋一浩研究室
<http://take-hiko.tumblr.com/>

阿部真理子 「<オデッサ>空間・都市・素材」
ロンドン・メトロポリタン大学 建築学部 MA Unit10 卒業
<http://marrikoabe.tumblr.com/>

福地佑介 「再生するジャンクション」
千葉大学工学部建築学科栗生明研究室
http://issuu.com/yusuke_fukuchi/docs/diploma

作 者 名 : 百田智美

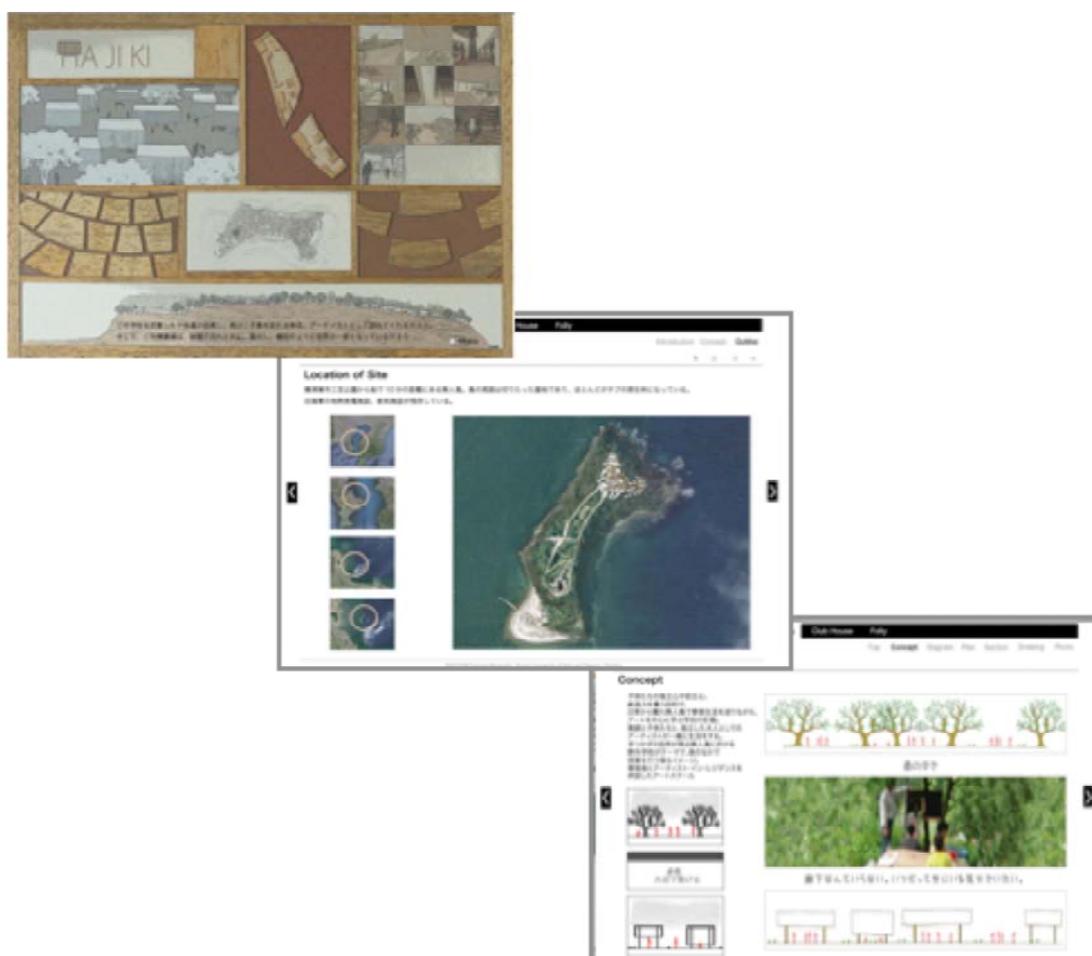
作 品 題 名 : HAJIKI

U R L : <http://momoda-tomomi.6.q1.bz/index.html>

出 身 大 学 : 京都造形芸術大学通信教育部芸術学部デザイン科建築デザインコース

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 子供たちの独立心や自立心、創造力を養う目的で、日常から離れ、無人島での寄宿生活を送りながら、アート中心に学ぶ学校を東京湾の無人島に提案。手つかずの島の自然環境と建築、人との関わり方を探求した。教師と子供たちと、独立した大人としてのアーティストと一緒に生活する、野外学校がテーマで、森の中で、授業を行う様なイメージ。寄宿舎とアーティスト・イン・レジデンスを併設したアートスクールと子供たちのエスケープゾーンとしての小さな図書館を持つフォリー、卒業生や一般の人々が利用出来るクラブハウスの三つのゾーンで、構成される。基本となる形態は等高線をプロットし、必要なボリュームを立ち上げた。その形態の小さな単位の組み合わせで、三つの異なる機能の建築に展開した。



DAAS審査評 : 三部作シリーズの作品群の中では、全体を統合したコンセプト、表現の方法、建築の造形などが秀でている。東京湾に浮かぶ無人島に臨海学校としての子供のための施設をもうける提案。3つのプログラムには独自の生成手法が用いられているが、それが連結、統合される中で島の全体を網羅する有機的な建築郡となっている。

作 者 名 : 竹内吉彦

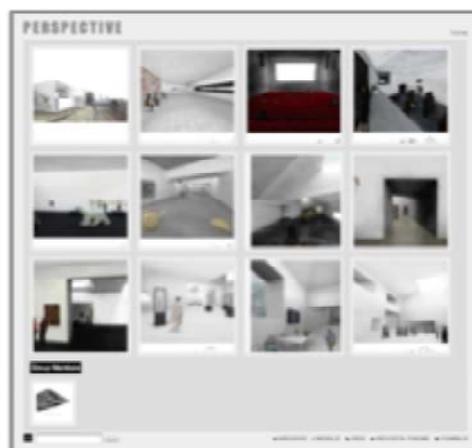
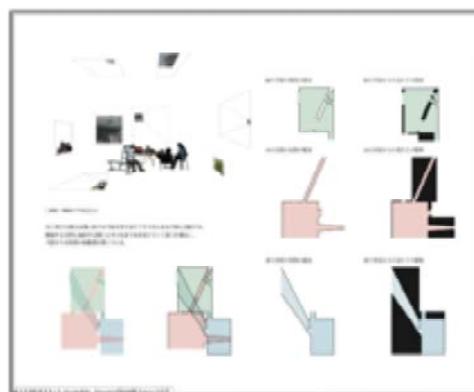
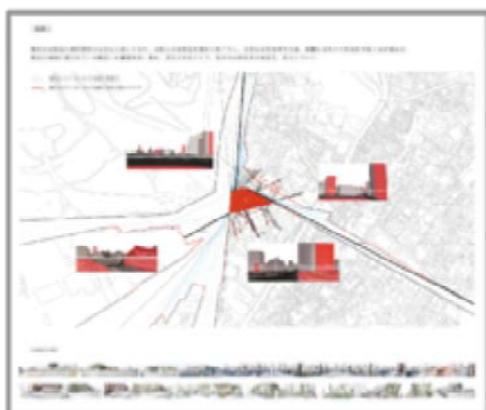
作 品 題 名 : 張りぼてと対

U R L : <http://take-hiko.tumblr.com/>

出 身 大 学 : 東京理科大学工学部建築学科小嶋一浩研究室

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 「建築」張りぼては仮想の壁厚をつくり、その中に対の空間を予期させる。都市の隙間に隠れた距離感を拾い集め、内部に混在させることによって奥を消失し、都市の喧騒を隔てながらも都市とのつながりを持ち続けるアートセンターを設計する。[デジタル化による表現手法]メディアが多様化した現在に、この作品がなるべく多くの人の目に触れられ、関係性をつくっていくことを考え、tumblrという、ブログとミニブログ、そしてソーシャルブックマークを統合したウェブスクラップサービスを組み合わせることでwebページを構築した。ここではTwitterのように他のユーザからフォローされたり、リブログという他人が投稿したポストを自分のページへ再投稿して反映させる機能を活かして、この作品がどれほど他者からの共感を得られるかを観察していくことができる。



DAAS審査評 : 建築に向き合う姿勢は素朴であるが、その取り組みへの執念を強く感じる。ウェブで表現するという手法をたくみに用い、扉を一つ一つ開きながら作者の造形世界へ誘うという古典的な表現を美しく実現している。

作 者 名 : 阿部真理子

作 品 題 名 : <オデッサ> 空間・都市・素材

U R L : <http://marrikoabe.tumblr.com/>

出 身 大 学 : ロンドン・メトロポリタン大学 建築学部 MA Unit10

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 建築のかたちを追求するのではなく、起きていること、空間の雰囲気にも目を向ける。そのプロセスの中で徹底して“手”を使い、ドローイング/模型自体のもつ質感、スタディの課程で起きるアクシデント等を、設計する空間と重ね続けて行く。ハンドドローイングのワークショップ“Spatial Atmosphere”、アーバンスタディ“Walking and urban practice”、コンクリートキャスト“Material Matters”という前半の3つのワークショップを経て、メインのプロジェクトへ向かう。敷地はウクライナの第二都市、オデッサ。19世紀の都市計画によるグリッドと、その背後に存在する多様な中庭空間からなる美しい基盤に、人々は寄生するように生活している。歴史と現在、公と私とが独特の関係を持って生き続ける寄生都市オデッサにおける、新たな中庭空間を考える。住民によって編集されてゆく、半公共の中庭空間である。



DAAS 審査評 : オデッサファイルと名付けられた作品は、大変アナログで手のこんだ手書きの図面をデジタル化し、その技術を駆使しながらデジタル世界でのスムーズな閲覧と検証を可能としている。プロセス重視の設計手法から生み出される建築の提案は、固定化したビルディングタイプの表示としてではなく、社会や芸術の表彰すべき現象として立ち上がってくる。こうした建築の成り立ちへの関心や理解、評価を改めて示すべき作品である。

作 者 名 : 福地佑介

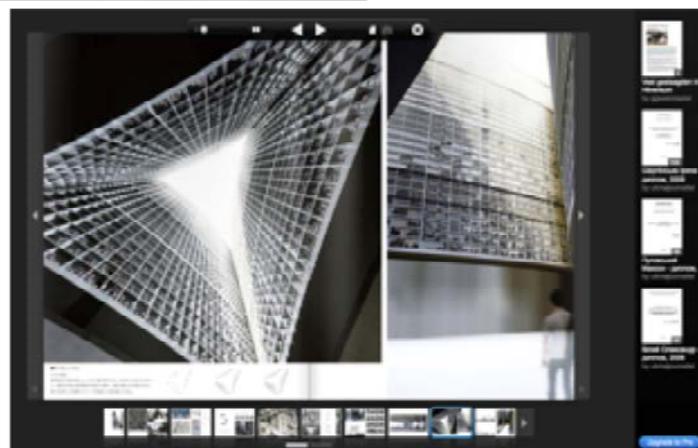
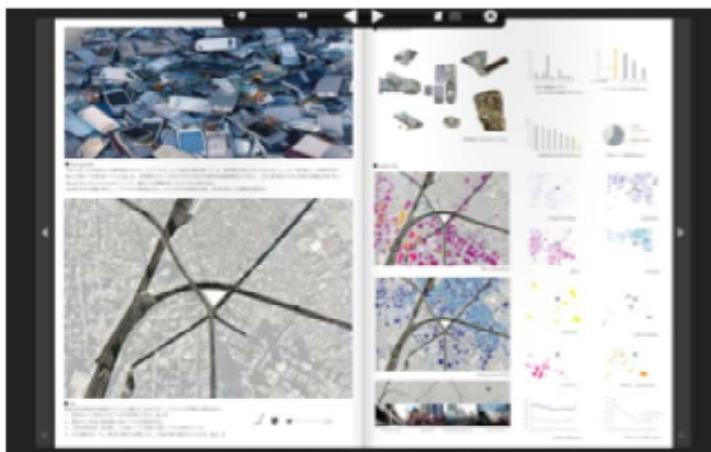
作 品 題 名 : 再生するジャンクション

U R L : http://issuu.com/yusuke_fukuchi/docs/diploma

出 身 大 学 : 千葉大学工学部建築学科栗生明研究室

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 年間2100万台が廃棄される携帯電話には貴重な資源である、無数のレアメタルが存在し、それらは「都市鉱山」と呼ばれる資源の末路であるが、資源の再生は一向に進まない。そこで都市鉱山を集積し、再生し、再び都市に流通させるためのリサイクル施設兼、回収拠点兼、広報媒体としての建築をエンドユーザーが多いとされる高密都市池袋に提案する。3面を異なるインフラに囲まれ、清掃工場が隣接し、周辺と分断された敷地において、「ジャンクション」を挿入することにより、土地の高度化を計ると共に、インフラを利用した効率的な物流、再生の体系を作る。そして両者が共存することにより、再生に関する、多様なスピード感と圧倒的なマスのストックが、都市に、そして人々に浸透していく。やがてレアメタルの再生への啓蒙が進み、都市の各所に再生の輪が整ったとき、レアメタルの壁面は解体され、建築は遊歩道としての機能を残した記念碑的な広場になる。



DAAS審査評 : 高速道路のジャンクションに建築を設定し、場所の意味や形体の現れ方、機能、都市における存在の意義を問うという点では優れた造形感覚を提示しているといえる。ウェブにおける表示のインタフェイスは汎用の技術を転用しているので閲覧をする際の高揚感などにはかけるが。ポートフォリオをとしてのデータやり取りを重視するのであれば、大きな障害になるとは考えられないけれど、インターフェイスの活用については一考の価値があるのではないか。

第5期(2010-2011年度)収支決算

2010年10月1日から2011年9月30日まで

科目	予算額(a)	執行額(b)	差異(a-b)
I 事業活動収支の部			
事業活動収入			
1 会費・入金収入	12,490,000	12,450,000	40,000
企業会員	7,860,000	7,620,000	240,000
団体会員	4,600,000	4,800,000	△ 200,000
学術・教育機関会員	30,000	30,000	0
個人会員	0	0	0
2 事業収入	8,550,000	9,065,000	△ 515,000
記録作成業務受託収入	8,500,000	8,500,000	0
コンテンツ有償利用料	50,000	565,000	△ 515,000
3 その他収入	0	134	△ 134
受取利息	0	134	△ 134
雑収入	0	0	0
事業活動収入 計	21,040,000	21,515,134	△ 475,134
事業活動支出			
1 事業費支出	19,800,000	15,835,159	3,964,841
WEBサイト改修委託支出	1,500,000	1,575,000	△ 75,000
イベント事業支出	1,000,000	1,054,762	△ 54,762
コンテンツ整備事業支出	7,000,000	2,912,921	4,087,079
記録作成事業	8,500,000	8,500,000	0
保守費支出	1,800,000	1,792,476	7,524
2 管理費支出	5,810,000	6,786,151	△ 976,151
事務所経費	600,000	1,093,519	△ 493,519
人件費	4,100,000	4,441,586	△ 341,586
旅費交通費支出	350,000	125,890	224,110
機材費支出	150,000	128,046	21,954
通信運搬費支出	100,000	206,901	△ 106,901
渉外費支出	100,000	0	100,000
会議費(含総会)支出	100,000	203,826	△ 103,826
租税公課支出	50,000	0	50,000
会計士外部委託費支出	160,000	157,500	2,500
雑費支出	100,000	428,883	△ 328,883
事業活動収支 計	25,610,000	22,621,310	2,988,690
事業活動収支差額	△ 4,570,000	△ 1,106,176	△ 3,463,824
II 投資活動収支の部			
投資活動収入			
修繕引当預金取崩収入	1,800,000	1,800,000	0
投資活動収入 計	1,800,000	1,800,000	0
投資活動支出			
修繕引当預金取得支出	1,800,000	1,807,524	△ 7,524
その他固定資産取得支出	0	519,846	△ 519,846
投資活動支出 計	1,800,000	2,327,370	△ 527,370
投資活動収支差額	0	△ 527,370	527,370
III 財務活動収支の部			
財務活動収支差額	0	0	0
IV 予備費支出			
予備費支出	533,585	0	533,585
当期収支差額	△ 5,103,585	△ 1,633,546	△ 3,470,039
前期繰越収支差額	5,103,585	5,103,585	0
次期繰越収支差額	0	3,470,039	△ 3,470,039

監 査 報 告 書

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム規約第 15 条第 4 項の規定に基づき、建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアムの第 5 期(2010-2011 年度)(2010 年 10 月 1 日から 2011 年 9 月 30 日まで)の事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録について監査を行った結果、正確かつ適正であることを認めます

2011 年 10 月 17 日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

社団法人 日本建築士会連合会 会長

藤本 昌也



2011 年 10 月 14 日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム監事

財団法人 建築技術教育普及センター 理事長

浅野 宏



議案2 第6期(2011-2012年度)事業計画
及び収支予算について

資料4 第6期(2011-2012年度)事業計画

資料5 第6期(2011-2012年度)収支予算

第 6 期（2011-2012 年度）事業計画

1. 基本方針

第 6 期期初までの目標としていた 10,000 点の資料収蔵を実現し、Web の検索機能の整備も一定の目処がついた。第 6 期からは、保全を中心とした活動から資料の活用を目的とする方向に重心を移し、新規コンテンツ制作と新規事業への展開を図る。

また、アーカイブ活動の普及、周知のための広報活動、講演活動等を行い、広く国内外に活動を示し、アーカイブ事業への協力と支援を呼びかける。

Web サイトは利用者の利便性を考えた機能改善と、投稿型、参加型に対応する機能拡張を検討する。それにより Web サイトの管理機能を簡略化し、経費を節減するとともに、新規事業展開への注力が可能になると考える。

今後は国内の社会制度の中でのアーカイブのあり方を模索し、第 6 期からの数年間の活動はデータを安定して維持できる体制の構築に着手する。今後 2～3 年のうちに方向を見いだすべく、様々な試行を重ねる。

国内の教育機関のアーカイブスネットワークにより「物理保存」と「デジタルデータ保存」の棲み分けを実現させ、さらには建築博物館構想との連携の具体化や、行政などからの資金の投入を検討。維持と運営を軌道に乗せるべく様々な方法を模索する。

2. 事業計画

建築従事者のニーズに対応できる、高精細画像を保存するサイトとして存在する一方で、一般の方々の利用拡大に向け、様々なモバイルツールに対応するコンテンツを検討する。「保全」「活用」の両面を持ちながらバランスをとり、それぞれの収入事業を考える。

(1) コンテンツの整備

モバイルツールに対応するコンテンツ制作を検討する。デジタルアーカイブスの方向性や建築アーカイブスについての議論の場として講演会を開催し、その模様を収録するとともに、Web サイト上でも意見交換の場をつくる。教育機関、公共機関などとも連携を進めるべく方法を検討する。

① 動画収録

第 5 期に計画した写真家、評論家の動画収録を実施する。第 6 期も継続してビデオ作成ワーキンググループを設置し新規動画収録のための企画を検討する。また、広報活動、講演会企画などを行い、その模様の収録と Web サイトでの公開を行う。

② 収蔵作品の解説等の掲載

DAAS で収蔵する資料についての解説コラムや、動画、音声コンテンツなど、収蔵作品と関連づけをした建築ガイドとしてのコンテンツ制作を検討する。

- ③ 第5回デジタル卒業設計大賞の実施。
第6期においても、デジタル卒業設計大賞を実施する。
参加者への告知方法及びスポンサーの確保等について検討する。
- ④ 住宅団地・まちなみ等に関するコンテンツ整備
これまでに作成したリストに沿って、住宅団地・まちなみ等のデータ収集と公開方針を検討すると共に、今後収集すべき資料のリスト化を進める。
まちなみの表彰事業を行う団体への働きかけを行い DAAS-Web サイトでの公開について、交渉・調整を行う。
- ⑤ オープンアライアンス活動（デジタル化収集と資料公開）
JIA-KIT 建築アーカイブスで現物保存している資料について、DAAS でのデジタル化、及び資料公開を行っているが、この実績を他のアーカイブや資料保有者に示し、活動の協力と連携を広く呼びかける。現在 DAAS の収録にはない、スケッチや技術・設備等の資料など、関連資料の厚みを増すような資料をもつ関係機関との連携を検討する。
- ⑥ モバイルサイト化
利用者を増やすためモバイルツールの多様化に応える必要がある。タブレット対応コンテンツやモバイル対応コンテンツを早急に実装する。展示などのデモンストラーションの場を設け、その評価を受けながら必要な機能を検討する。

(2) Web サイトの改善

Web サイト全体の改修と文字情報の整備などを継続して実施する。新規コンテンツの形式に対応する Web サイトの機能改修を進める。

(3) 基本システムの運営・管理

資料情報の揺れや調整を継続して行い、より正確な情報提供を行えるよう閲覧者からの情報提供を呼びかける機能を追加する。また、DAAS が運営する Web サイト (<https://www.daas.jp/>) およびデータ収集サーバや機器の管理と運用を引き続き慶應義塾大学に依頼するが、今後の防災や節電等の影響を考え、緊急対応先を広げるための協力機関の呼びかけを行うと共に、既存ハードウェアの利用を限定し、故障などの可能性があるハードウェアは仮想化を利用して、外部に委託するなどの案を検討する。ハードウェアの依存性を極力減らすなど DAAS-Web の運用の省力化を図り、事務局の負担を減らす方向で進めていく。

(4) DAAS の広報・実空間展示等の企画立案

各団体の全国大会での展示、デモンストレーションを行う。また、デジタルアーカイブスの方向性や連携などについて教育機関などとの議論の場としての講演会などを検討する。

(5) 法人化の準備

引き続き一般社団を目指し必要な内部規定の整備等、事務局体制の整備を進める。

(6) 会員向けサービスの強化

DAAS-Web サイトに資料提供者用ページ（ポートフォリオ機能）等、投稿型の機能を実装する。それにより、資料提供者が積極的に関われるような仕組みを整備する。

(7) その他

その他、DAASの目的に資する活動を実施する。

以 上

第6期(2011-2012年度) 収支予算
2011年10月1日から 2012年9月30日まで

(単位:円)

科目	予算額	
I. 事業活動収支の部		
事業活動収入		
1. 会費・入会金収入	9,290,000	
企業会員	7,260,000	企業会員19
団体会員	2,000,000	団体会員10
学術・教育機関会員	30,000	学術会員1
個人会員	0	
2. 事業収入	50,000	
記録作成業務受託収入	0	
コンテンツ有償利用料	50,000	
3. その他収入	0	
受取利息	0	
雑収入	0	
事業活動収入計	9,340,000	
事業活動支出		
1. 事業費支出	6,800,000	
WEBサイト改修委託支出	1,500,000	
イベント事業支出	1,000,000	
コンテンツ整備事業支出	1,000,000	
サーバ管理委託費	1,500,000	
記録作成事業	0	
保守費支出	1,800,000	
2. 管理費支出	5,560,000	
事務所経費	350,000	
人件費	4,100,000	
旅費交通費支出	350,000	
機材費支出	150,000	
通信運搬費支出	100,000	
渉外費支出	100,000	
会議費(含総会)支出	100,000	
租税公課支出	50,000	
会計士外部委託費支出	160,000	
雑費支出	100,000	
事業活動支出計	12,360,000	
事業活動収支差額	▲ 3,020,000	
II. 投資活動収支の部		
投資活動収入		
修繕引当預金取崩収入	1,800,000	
投資活動収入計	1,800,000	
投資活動支出		
修繕引当預金取得支出	1,800,000	
投資活動支出計	1,800,000	
投資活動収支差額	0	
III. 財務活動収支の部		
財務活動収支差額	0	
IV. 予備費支出		
予備費支出	450,039	
当期収支差額	▲ 3,470,039	
前期繰越収支差額	3,470,039	
次期繰越収支差額	0	

注)この予算書は消費税込みで計算しております

議案3 理事・監事名簿変更の件

資料6 理事・監事名簿

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)
第5期・第6期 理事・監事名簿

(順不同 敬称略)

■理事

鈴木 博之 (建築史家)
和田 章 (社団法人 日本建築学会 会長)
芦原 太郎 (社団法人 日本建築家協会 会長)
樋口 武男 (社団法人 住宅生産団体連合会 会長)
松野 仁 (一般財団法人 日本建築センター 理事長)
三栖 邦博 (社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長)
山内 隆司 (社団法人 日本建設業連合会 副会長 建築本部長)
隈 研吾 (建築家)
難波 和彦 (建築家)
古谷 誠章 (建築家)
六角 鬼丈 (建築家)
池原 義郎 (建築家)
岡本 慶一 (株式会社 日建設計 代表取締役社長)
六鹿 正治 (株式会社 日本設計 代表取締役社長)
吉田 信之 (株式会社 新建築社 代表取締役)
能登 義春 (大和ハウス工業株式会社 取締役上席執行役員)

■監事

藤本 昌也 (社団法人 日本建築士会連合会 会長)
浅野 宏 (財団法人 建築技術教育普及センター 理事長)

2011年10月改訂

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)
第5期・第6期 役員名簿

(順不同 敬称略)

■ 会 長

榎 文彦 (建築家)

■ 理事長

鈴木 博之 (建築史家)

■ 副理事長

三栖 邦博 (社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長)

芦原 太郎 (社団法人 日本建築家協会 会長)

■ 監 事

藤本 昌也 (社団法人 日本建築士会連合会 会長)

浅野 宏 (財団法人 建築技術教育普及センター 理事長)

■ 理 事

和田 章 (社団法人 日本建築学会 会長)

山内 隆司 (社団法人 日本建設業連合会 副会長 建築本部長)

樋口 武男 (社団法人 住宅生産団体連合会 会長)

松野 仁 (一般財団法人 日本建築センター 理事長)

隈 研吾 (建築家)

難波 和彦 (建築家)

古谷 誠章 (建築家)

六角 鬼丈 (建築家)

池原 義郎 (建築家)

六鹿 正治 (株式会社 日本設計 代表取締役社長)

岡本 慶一 (株式会社 日建設計 代表取締役社長)

吉田 信之 (株式会社 新建築社 代表取締役)

能登 義春 (大和ハウス工業株式会社 取締役上席執行役員)

■ 顧 問

村井 純 (慶應義塾大学 環境情報学部長 教授)

2011年10月改訂

報 告

資料7 会員の変更について

資料8 規約第7条第4項に基づく指定代表者の
変更について

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)
会員名簿

(順不同 敬称略)

榎 文彦 (建築家)
 鈴木 博之 (建築史家)
 隈 研吾 (建築家)
 六角 鬼丈 (建築家)
 難波 和彦 (建築家)
 古谷 誠章 (建築家)
 池原 義郎 (建築家)
 和田 章 (社団法人 日本建築学会 会長)
 藤本 昌也 (社団法人 日本建築士会連合会 会長)
 三栖 邦博 (社団法人 日本建築士事務所協会連合会 会長)
 芦原 太郎 (社団法人 日本建築家協会 会長)
 山内 隆司 (社団法人 日本建設業連合会 副会長 建築本部長)
 樋口 武男 (社団法人 住宅生産団体連合会 会長)
 松野 仁 (一般財団法人 日本建築センター 理事長)
 那珂 正 (財団法人 ベターリビング 理事長)
 吉田 信之 (株式会社 新建築社 代表取締役)
 村重 芳雄 (五洋建設株式会社 取締役社長)
 山口 俊男 (株式会社 奥村組 取締役専務執行役員)
 六鹿 正治 (株式会社 日本設計 代表取締役社長)
 大田 弘 (株式会社 熊谷組 取締役社長)
 成川 哲夫 (興和不動産株式会社 代表取締役社長)
 永尾 眞 (前田建設工業株式会社 取締役専務執行役員 建築事業本部長)
 割田 正雄 (清水建設株式会社 常務執行役員 設計・プロポーザル統括)
 平林 文明 (積水ハウス株式会社 取締役専務執行役員)
 野呂 一幸 (大成建設株式会社 常務・設計本部長)
 北 泰幸 (株式会社 竹中工務店 常務取締役)
 岡本 慶一 (株式会社 日建設計 代表取締役社長)
 小林 照雄 (株式会社 大林組 常務執行役員 東京本社 設計本部長)
 尾崎 勝 (鹿島建設株式会社 常務執行役員 建築設計本部長)
 副島 伸一 (住友不動産株式会社 ビル管理部長)
 合場 直人 (三菱地所株式会社 常務執行役員)
 田中 孝典 (株式会社 山下設計 代表取締役社長)
 大江 功一 (三井不動産株式会社 建設企画部長)
 碓氷 辰男 (東京建物株式会社 代表取締役専務取締役 ビル事業本部長)
 村井 純 (慶應義塾大学 環境情報学部長 教授)
 戎居 連太 (株式会社 連合設計社市谷建築事務所 代表取締役社長)
 馬場 栄一 (株式会社 建築資料研究社 代表取締役)
 能登 義春 (大和ハウス工業株式会社 取締役上席執行役員)
 金箱 温春 (社団法人 日本建築構造技術者協会 会長)
 浅野 宏 (財団法人 建築技術教育普及センター 理事長)
 川瀬 貴晴 (社団法人 建築設備技術者協会 会長)

2011年10月改訂

建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム (DAAS)
 法人会員指定代表者変更
 (建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム規約 第7条第4項 関係)

(敬称略)

■ 団体会員

社団法人日本建築学会

〈変更前〉 佐藤 滋 (会長)
 〈変更後〉 和田 章 (会長)

社団法人日本建築構造技術者協会

〈変更前〉 木原 碩美 (会長)
 〈変更後〉 金箱 温春 (会長)

一般財団法人日本建築センター (旧 財団法人日本建築センター)

〈変更前〉 立石 真 (理事長)
 〈変更後〉 松野 仁 (理事長)

社団法人日本建設業連合会 (旧 社団法人建築業協会)

〈変更前〉 山内 隆司 (会長)
 〈変更後〉 山内 隆司 (副会長 建築本部長)

■ 企業会員

三菱地所株式会社

〈変更前〉 長島 俊夫 (代表取締役 専務執行役員)
 〈変更後〉 合場 直人 (常務執行役員)

三井不動産株式会社

〈変更前〉 岡 房信 (建設企画部長)
 〈変更後〉 大江 功一 (建設企画部長)

前田建設工業株式会社

〈変更前〉 永尾 眞 (取締役常務執行役員 建築事業本部長)
 〈変更後〉 永尾 眞 (取締役専務執行役員 建築事業本部長)

積水ハウス株式会社

〈変更前〉 平林 文明 (取締役常務執行役員)
 〈変更後〉 平林 文明 (取締役専務執行役員)

2011年10月1日付

DAASの『UIA2011 東京大会』での活動並びに第6期活動展開について

■ UIAにおける活動目的について

当初『DAAS』の周知を図る意味で、広報活動に軸足を置き、URLの表示ならびに広報映像の投影、PC設置による操作体験などを考えていた。しかし、3.11 東日本大震災を踏まえた、東京大会の新たなテーマにも応えられるような展示活動に修正する方針とした。

■ 第6期にむけての DAAS コンテンツの方向

DAASは、今秋に第5期を終了する。アーカイブとしての資料収蔵の一定規模を確立させることと、Webを使った検索システムなどの仕組みも整ったと考えている。そこで、第6期以降の活動の方向性を見極め、次へ展開させる必要がある。

■ Web サイト上での活動として将来性のある活用の仕方を模索する。

これまでに収蔵、制作してきた『保全』対象の画像、動画コンテンツから、『活用』を目的としたコンテンツ、閲覧者や利用者が『投稿可能』なウェブサイトのある方を考えていきたい。

これまでに収蔵をしてきた、写真家、設計者、雑誌社、企業等々が著作権を保有する『保全すべき資料』『DAASのWebサイトでのみ公開可能』とするコンテンツとは切り分けをし、第6期以降は『参加型』『公開型』コンテンツ他のサイトとの『引用』『連携』が可能となるコンテンツ、アップロード作業の即応性を高めたコンテンツを制作する方向への展開を考える。

■ 今後の方針を見据えた上での UIA2011 東京大会における活動展示（案）

すでに収蔵された写真資料等に加え、震災エリアの取材映像を元に「景観」の今昔や今後どのように立て直すのかをその場で議論（対談形式）し、その様子をその場でWeb上にアップする、という作業工程を見せながら、聴衆や大

会参加者の持参しているツール（パソコン、iPad、iPhone など）において Web 観戦、参加できるイベントを開催したい。展示ブースとしては、ラジオのサテライトスタジオ的な雰囲気想定している。震災後の取材映像やコンテンツは今後も増え続けると思われるが、DAAS が、このような歴史的な重要性をもつ情報を公開するプラットフォームになることも志向している。可能であれば震災前の画像や映像も収蔵に加え、対比させながら DAAS の主旨である景観や都市デザインの考察に役立つ資料の集積としていきたい。現在 UIA 東京大会の DAAS の活動展示については、東京国際フォーラムガラスホール棟 B1F のロビーギャラリー部分で行う予定である。(9/28 全日) スクリーン映写+数十脚のイス席のシンポジウム等の会場として使用できる様を依頼しているところである。

■ 『景観』取材映像について

場所情報を伴った声、写真、動画、絵（スケッチ）などが考えられる。情報の形式にとらわれず、多様なコンテンツが Web 上で閲覧できる様、Web サイトの改修に必要な内容、デザインを検討し実装する。必要であれば DAAS コンテンツの閲覧のための他の媒体でのアプリなどのインタラクティブな手法を作成し、若い世代への浸透や国際的な展開を考える。

UIA2011東京大会 関連イベント

デジタルアーカイブの可能性 Future of Digital Archive

2011.9.28(水)10:30～ 東京国際フォーラム ガラス棟B1階 ロビーギャラリー

トークセッション

3.11以降の日本の景観*都市*建築のあり方を
若手建築家、研究者が提言する

Session 1	11:00-12:00 本江正茂×赤松佳珠子
Session 2	12:00-13:00 赤松佳珠子×磯達雄
Session 3	13:00-14:00 磯達雄×渡邊英徳
Session 4	14:00-15:00 渡邊英徳×大山顕
Session 5	15:00-16:00 大山顕×倉方俊輔
Session 6	16:00-17:00 倉方俊輔×本江正茂



本江正茂

東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻准教授
せんだいスクール・オブ・デザイン校長
博士(環境学)
1966年 富山県生まれ
1993年 東京大学大学院工学系研究科博士課程中退
著書『プロジェクトブック』(彰国社, 共著, 2005年)
『OfficeUrbanism』(新建築, 共著, 2003年)等



赤松佳珠子

CAパートナー
日本工業大学、日本女子大学、法政大学、神戸芸術工
科大学非常勤講師
1968年 東京都生まれ
1990年 日本女子大学家政学部住居学校卒業
シーラカンズに加わる
2002年 C+Aパートナー
2005年CA(C+Aトウキョウ)に改組



磯達雄

建築ジャーナリスト
編集事務所フリックススタジオ共同主宰
桑沢デザイン研究所非常勤講師
武蔵野美術大学非常勤講師



渡邊英徳

情報アーキテクト、デジタル地球儀や仮想世界サービス
を応用した情報アーキテクチャのデザイン、アート&エ
ンターテインメントを研究
1996年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
1998年 同大学院修士課程修了
2001年 株式会社フオン代表取締役社長(現スーパーバイ
ザー兼取締役)
2008年 首都大学東京システムデザイン学部准教授
2010年 同大学院システムデザイン研究科准教授

展示プログラム

DAAS*アーキエイド*宮城大学*首都大学東京

DAAS Webサイト

宮城被災地レポート
(アーキエイドプロジェクト)
資料検索システム

宮城大学中田研究室

声の伝承プロジェクト
A Book for Our Future 311
DECADE

首都大学東京渡邊英徳研究室

被災地フォトオーバーレイ
ヒロシマ・アーカイブ
Nagasaki Archive



大山顕

1972年 生まれ
1996年 団地写真を4×5で撮影、ウェブサイトで発表開始
写真集『団地の見聞』(2008年 東京書籍)、『団地さん』(2008
年エンターブレイン)の出版のほか、写真展やトークイベ
ントなどを行う。NHK BS2『熱中時間』のレギュラーもつとめ、
テレビ、ラジオ等への出演多数



倉方俊輔

建築史家、大阪市立大学大学院工学研究科准教授
1971年 東京都生まれ
早稲田大学大学院博士課程満期退学 博士(工学)
著書に『吉阪隆正とル・コルビュジエ』(王国社)
共著に『建築家の読書術』(TOTO出版)
『東京建築ガイドマップ』(エクスタレージ)
『伊東忠太を知っていますか』(王国社)ほか



坂本和子:総合司会

東京都生まれ
武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
コロムビア大学GSAPP修士課程修了
磯崎新アトリエ、プラネットワークスでの勤務を経て独立
設計業務の他、武蔵野美術大学 京都造形芸術大学で非常
勤講師を務める

USTREAM配信: MOSAKI

主催: 建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム

2011年9月28日実施
DAAS事務局

UIA2011 東京大会 DAAS イベント トークセッション及び展示報告

2011年9月28日 UIA2011 東京大会本会場の東京国際フォーラムガラス棟ロビーギャラリーにおいて「デジタルアーカイブの可能性：Future of Digital Archive：3.11以降の日本の景観*都市*建築のあり方を若手建築家、研究者が提言する」という題名でイベントを開催した。

一般の方が閲覧可能なオープンなスペースにて行われたこのイベントは、第5期までに実施した表彰事業やまちなみ資料収蔵の成果の展示と、コンテンツやアーカイブの今後の可能性についてのトークセッションをメインとして、その他アーカイブの活動紹介やデモンストレーションが同ブース内の展示エリアで行われた。国内外からの閲覧者、参加者が終日途切れることなく訪れ、盛況なイベントとなった。

トークセッションは各1時間程度、全6回が行われ、その模様は Web の映像配信サービス [ustream](#) でライブ配信された。また、オンラインでメッセージを交わすサービス「[twitter](#)」との連動で会場以外の閲覧者からの投稿も行われながら進められた。イベントの様子を収録した動画データは DAAS-Web サイトに掲載する予定である。

トークセッションは、都市建築デザイン、IT コミュニケーションデザイン、建築家、ジャーナリスト、情報アーキテクト、愛好家、建築史家等によって進められ、それぞれの専門分野から「アーカイブとは何か」の問題提起から始まり、これからの資料収集と公開のあり方、貴重な資料の利活用について、多様な建設的意見が議論され、今後のアーカイブの活動や活動の連携、その可能性について様々な場面が立ち上がることが期待されるセッションとなった。以下はトークセッションの一部をまとめたものである。

<当日の設営の様子>



UIA2011 東京大会関連イベント トークセッション 実施報告

【本江正茂(東北大学准教授)×赤松佳珠子 (CAat パートナー)】



DAAS の問題点「重い」(検索結果の表示時間の問題)「少ない」(資料ストックのバラつき)「漏れる」(検索キーワードの問題)といったユーザーの視点からの批判はありがちではあるが、それはアーカイブを育てる態度ではない、と本江氏は指摘する。ユーザーとアーカイブ提供者が二分するのではなく、補完しあう方がよいのではないかと。これが本江氏の本題である。

記録をするのが record、再生が play。記録されたものをどのように play するか、というのがアーカイブのデザインである。ユーザーと提供者の二者間だけでなく、そのベクトルは多様な方向に向かう可能性がある。つまり「情報を集め」「記録」し「保存」してあれば「アーカイブである」と思われがちだが「それをどう使うのか」「そこから何を取り出すのか」というアイデアが大切だと語る。

建築はそれ自体がモニュメントであるがそれは容易に失われる。震災で様々な人が「アーカイブを作ろう」「モニュメント残そう」と言う意見があったが、それについて考え直す機会を作りたいと思っていた。デジタルアーカイブには形なき後のモニュメント、記憶を預ける装置としての存在意義も求められる、と話す。「DAAS へのお願い」と題し「サーバーの安定化」「データの拡充」「コミットメントのデザイン」「不意打ち(狙った検索項目以外の情報との意外な出会いの機会)」を挙げ、さらにマッシュアップ項目として、画像以外にも「映像」「テキスト」「タイムスタンプ」「ライフログ」「BIM データ」のストックが求められる、と語った。赤松氏は「DAAS が DAAS で終わる必要はない。誰のためのストックか、どう活用するものか、という階層が明確になることも大切だと思う」と語った。

赤松氏が話し手となった対談では「ビデオアーカイブ」が残すものについて語られた。

【磯達雄氏(建築ジャーナリスト)×渡邊英徳氏(首都大学東京教授)】



「3.11があって東北のことが心配だった、同時に建築のことが心配だった。そのひとつが岩手県の旧田老町にあった国民宿舎、三王閣。震災の折り、人々の役に立っていればと思ったが、今回を機に調べてみたら、すでに解体されていた。解体前の見学会まで行われていたとのことで悔やまれた。この建築を好きな人に、建築にまつわるお知らせが届けば良いと感じた。同時に、きちんと記録が残されていて欲しい。もう一つ、都城市民会館に行く機会に立ち寄った「西都原考古資料館(資料提供 DAAS)」。新建築の表紙にもなった建築だが、これもすでに建て替えられ形を変えていた。しかし石碑として記録が残されていたことに、有り難く感じた。」

3.11にまつわるエピソードから特撮物に話は展開する。ウルトラQで1966年に放映された宣伝用ビデオはモノクロの映像だったが、色をつけたリマスターがDVD化されている。怪獣が街を破壊するシーンは丸の内。壊された建物は架空の物のようだが、背景には実際にあったリーダーズダイジェストや改修前の丸ビル、第一生命館などが映っている。ストーリーから位置を推測して、どこでロケが行われたかを特定するまでの経緯などを、地図を示しながら説明。そしてこのフィルムが当時の建築や街について調べる資料としても機能していること、建築のアーカイブもまた、こうしたファンの役に立つことができるのではないかと語る。都内では現在も名建築と呼ばれた建物が、残される計画もないまま次々に壊されようとしている。記録は簡単に制作されるようになったが、それを残すつもりで作成する、という感覚は薄れている感がある、と語る。「専門的な情報は、一般の人にはどうでも良い場合もある。(ロケ地などとして)ポップカルチャー、サブカルチャーのストーリーに建築の情報が付加できるとき、関心を持って語られていくのではないかと提案する。両者をつなげるライナーノーツ(解説文)のようなものが、建築にも必要。それがデジタルアーカイブのひとつの役割なのではないかと語った。渡邊氏が話し手となった対談では、Google Earthを利用した首都大学の研究成果、ヒロシマ・アーカイブなどについて語られた。

【大山顕氏(団地愛好家/ライター)×倉方俊輔氏(建築史家/大阪市立大学准教授)】



会社員であった大山氏は、団地を愛するという視点で写真を撮り続け、ネットを中心に公開しはじめたことをきっかけに注目を集めている。同時に出版物の制作やイベント、写真展の開催、TVへの出演等を行っている。プレゼンテーションはまず、愛好家(マニア)として「団地の見方」について機知に富む解説からはじまった。さらに全国で撮影を続けている工場や高架下、ジャンクションの紹介が続いた。

大山氏はアーカイブについて問いかける。自分のような愛好家が写真を撮りウェブ上に掲載している現代において、その写真とDAASの写真との差は何か。愛好家の写真はアーカイブになり得ないのか。それに対し、倉方氏は新建築社が撮ってきたような写真と一般の人々がブログに掲載する写真との差は明らかに大きいと、大山氏のような視点で撮影された写真は、モノを見る目が備わっていると応える。また大山氏は、いつの間にか「アーカイブの作法=アーカイブとしてきちんと整える」といったものがあり、そのためかDAASを閲覧したことをきっかけに現地へ行ってみようと思うことはほとんどないが愛好家がつくるレポートは、そこへ行ってみたいと思わせる。その差は何かと問いかける。

終盤では東日本大震災をきっかけとした帰宅難民のルートログの制作と日本橋の話題へと展開する。日本橋の首都高は、埋める方向の話もあるが「首都高二十年史」を見ると、日本橋の写真と当時つくっていた人々が、これからの日本の成長を憂い、その橋に込めた強い想いが読み取れる。そして震災後も残る首都高と日本橋のこの姿がいかに奇跡的な風景であることか、改めて気づき、過去のアーカイブ写真は、振り返ると新しい発見をすることができる、と語る。

本来アーカイブとは未来の人々が宝と想うかも知れないものを「図」も「地」もそのままの状態をストックすべき。だからこそ、専門家だけではなく、限りなく作為をなくした形で、大山氏のように無心に「図」も「地」も横断することに意義があると倉方氏は加えた。最後に大山氏は、自らは次々とウェブ上に写真をあげ、願わくば、それらをもうひとつのアーカイブ、今の時代のアーカイブとしてDAASに扱ってもらえることができると語った。

【倉方俊輔氏（建築史家/大阪市立大学准教授）×本江正茂(東北大学准教授)】



倉方氏は、雑誌「日経アーキテクチュア」の連載で巡ってきた建物の紹介を中心にプレゼンを展開。この連載では、設計者も施工者も不明であるが、その背景などが感じられるもの、形として魅力的があるものなどの建物に注目する。有名なものだけでなく、無名な建物ものに踏み込んでみると、そこには新しい発見があるという。「海中展望塔：足摺海底館」や「ニュー新橋ビル」を題材に、その背景に潜む美的、都市的、歴史的エピソードを様々な角度から説明。これまで無名である建物に、実は見るべき「図」があると各作品を解説する。倉方氏が意識的に行うことは、前セッションの大山氏の取り組み方と、然程変わりがないという。そして、例え対象が有名建築家の設計による建物であっても、それを庶民のレベルから見ていきたいという。

本江氏は、倉方氏が専門的な眼差しを持ちつつ建物を取り上げ、そこから物語でつなぐ間をつくらうとしていることが重要なポイントだという。まさにその間をつくること、物語をつくるのが冒頭で述べ忘れたもうひとつの DAAS に足りないものと指摘した。アーカイブはそのままでは取りつく島がない。それぞれのアーカイブを使っていく有益なものにするためには、物語、つまり魅力的な話を付けていく人が必要である。

それが広義の歴史家としての仕事かもしれないと倉方氏は語る。歴史家だけが担保するものではないので、一般の人も加わってその物語を紡ぎ考え、そこから変換しさらに物語を膨らませる。そういう意味でも歴史家のアーカイブに対する役割も大きくなる。

語る言葉、物語は、過去の作品を再評価したときに生まれる、と倉方氏。その意味では現在の建築アーカイブには物語がないことは、やむをえないことでもあるが、その場合は、後世の人々に言葉や物語を語る行為を引き継いでいく面もあり得ると語った。

【終盤、登壇者よりトークセッションのまとめとして以下感想が述べられた】

(倉方) 今回の試みで6回の対話が繰り返されていく中で、そこで生まれた語り、さらに語りつがれていく工程が興味深い。その核となるものが資料や写真といったアーカイブということではないだろうか。

(本江) 真珠をつくるときに最初に入れる核のように、アーカイブにおいては正統性と持つ DAAS が核となる。そのために DAAS は、コアとなり周りにさまざまなものを付けていけるインターフェイスとサービスを持たなくては行けない。そこへ専門家もさまざまなコンテンツを加えていき、それらが B 級呼ばわりされることなく開かれていくのが望ましい。アーカイブというものは求心的な営みだと思われがちであるが、むしろそれが外へつながる力が必要である。そのためにもモザイクのガイドライン等をはじめとしたデジタルの形を整えたインターフェイスをつくる必要がある。これからのアーカイブは、外向けの力をつくることを意識し、我々がそのアーカイブに忘れてしまいがちな記憶をあずけていく。そういうシステムをみんなで作ってあげればいいと改めて感じている。

(渡邊) 誰でもデジタルアーカイブをつくれる時代になった。自身のアーカイブから言葉を紡げる、良い時代になったと言えよう。iPhone で自身の写真をめくり自分史を辿ることができる。言い換えると、人類の人数分のアーカイブが存在するという。さらにこれらのアーカイブに GPS 情報がついていれば、各土地のアーカイブを形成することができる。そこにストーリーが見えるとより人類は幸せになるのではないだろうか。

(大山) アーカイブは何であるか。さまざまな意見を通じ感じたことは、アーカイブそのものには語りが入らないということ。しかし、我々がアーカイブをテーマに語ったことは語りであった。アーカイブは我々を誘うものとして存在してほしい。



添付資料-2

2011年9月31日
DAAS 事務局

表彰作品資料収蔵事業についての報告

<収蔵数報告>

- 2010年～2011年3月迄の表彰作品収蔵対象件数 約1200作品
- 収蔵依頼数(電話連絡、資料送付) 200社/800作品
- 受領資料数 (490作品)約2,950枚

※2011年9月31日現在、引続き設計者からの写真提供、写真家との調整があるため、デジタル化作業を継続しております。

<収蔵内容について>

- 建築5団体以外の表彰作品で設計事務所より希望のあった作品も対象とした。
- JIA-KITアーカイブスが収蔵する図面、街並み資料を収蔵。(相田武文氏、川崎清氏受賞作品の図面。高橋志保彦氏表彰受賞の都市計画資料)
- DIK設計室、集工舎の表彰作品の図面資料を追加収蔵。
- 設計者からの写真受領以外に、エスエス社、日本建築写真家協会に表彰作品の該当資料の有無を確認し、各写真家から資料の提供を受けた。

<今後の作業日程>

- 写真資料返却 2011年5月末完了
- デジタルデータの最終納品 2011年6月上旬完了
- 関係者へのtestページ送付 2011年9月現在継続中
- 新規WEBサイトでの公開作業 2011年9月現在継続中

2011年5月20日運営委員会資料
DAAS事務局

デジタル卒業設計大賞懇親会報告

デジタル卒業設計大賞 2010 は、2010 年春までに大学を卒業、大学院を修了した人を対象に昨年秋に募集を行いました。今回は 10 作品の応募（内海外在住の方からの応募が 2 名）があり、その中から以下の 4 作品を今回の受賞者として選出いたしました。

また、3月31日に審査委員長である古谷誠章先生ご同席のもと懇親会を開催し、賞の授与を行いました。受賞者の中よりさらに1名を古谷賞として選出し副賞を授与いたしました。

会場の都合上、一般に公開はいたしませんでしたが、懇親会の様子は後日 DAAS ウェブ「デジタル卒業設計大賞 2010 懇親会」として動画をウェブサイトに掲載いたします。

会 場： 早稲田大学理工学部

日 時： 2011 年 3 月 31 日（木） 15：00 から

審査員： 古谷誠章氏 （DAAS 理事・建築家・早稲田大学教授）

入賞者： 百田智美 「HAJIKI」
京都造形芸術大学通信教育部建築デザインコース卒業
<http://momoda-tomomi.6.ql.bz/index.html>

竹内吉彦 「張りぼてと対」
東京理科大学理工学部建築学科小嶋一浩研究室
<http://take-hiko.tumblr.com/>

阿部真理子 「<オデッサ>空間・都市・素材」
ロンドン・メトロポリタン大学 建築学部 MA Unit10 卒業
<http://marrikoabe.tumblr.com/>

福地佑介 「再生するジャンクション」
千葉大学工学部建築学科栗生明研究室
http://issuu.com/yusuke_fukuchi/docs/diploma

作 者 名 : 百田智美

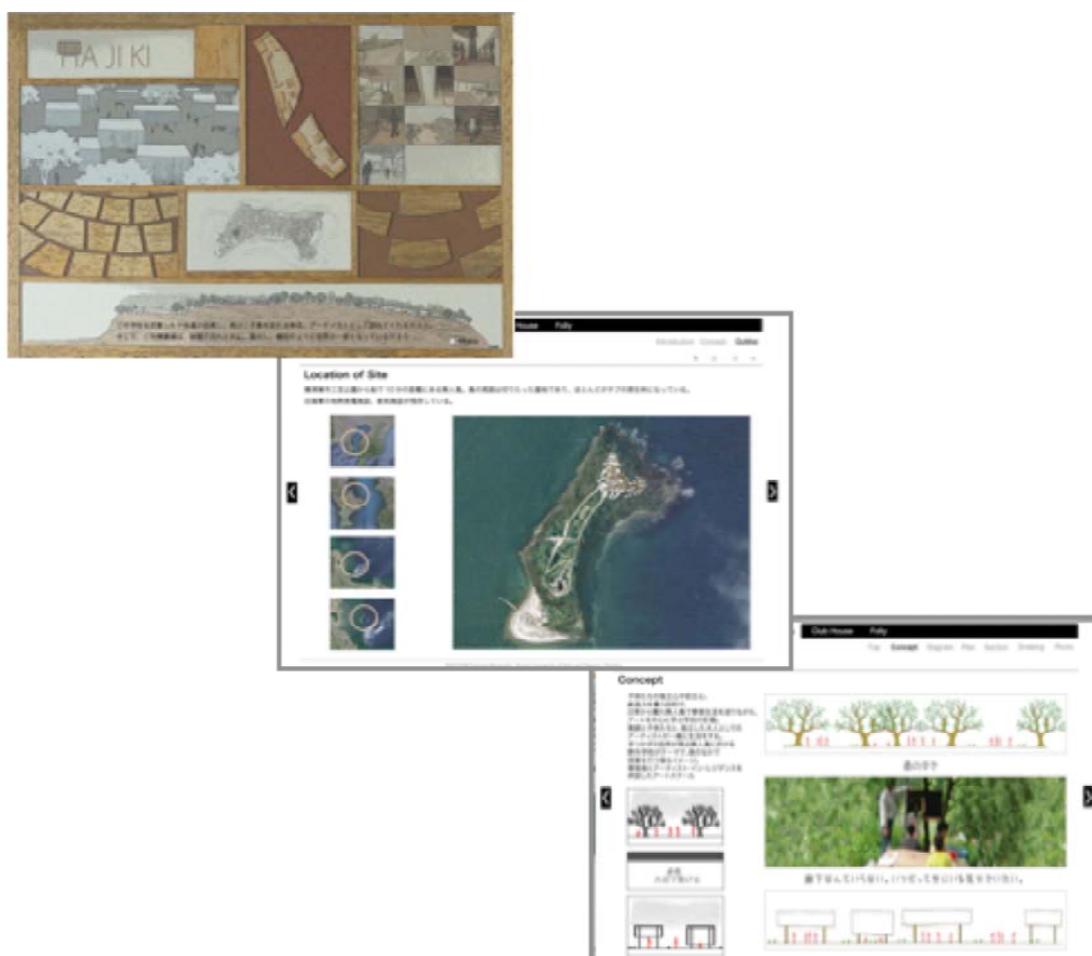
作 品 題 名 : HAJIKI

U R L : <http://momoda-tomomi.6.q1.bz/index.html>

出 身 大 学 : 京都造形芸術大学通信教育部芸術学部デザイン科建築デザインコース

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 子供たちの独立心や自立心、創造力を養う目的で、日常から離れ、無人島での寄宿生活を送りながら、アート中心に学ぶ学校を東京湾の無人島に提案。手つかずの島の自然環境と建築、人との関わり方を探求した。教師と子供たちと、独立した大人としてのアーティストと一緒に生活する、野外学校がテーマで、森の中で、授業を行う様なイメージ。寄宿舍とアーティスト・イン・レジデンスを併設したアートスクールと子供たちのエスケープゾーンとしての小さな図書館を持つフォリー、卒業生や一般の人々が利用出来るクラブハウスの三つのゾーンで、構成される。基本となる形態は等高線をプロットし、必要なボリュームを立ち上げた。その形態の小さな単位の組み合わせで、三つの異なる機能の建築に展開した。



DAAS審査評 : 三部作シリーズの作品群の中では、全体を統合したコンセプト、表現の方法、建築の造形などが秀でている。東京湾に浮かぶ無人島に臨海学校としての子供のための施設をもうける提案。3つのプログラムには独自の生成手法が用いられているが、それが連結、統合される中で島の全体を網羅する有機的な建築郡となっている。

作 者 名 : 竹内吉彦

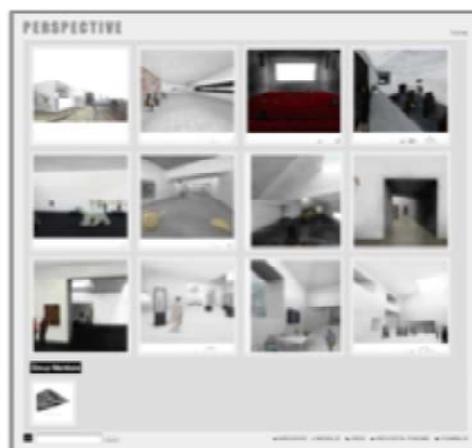
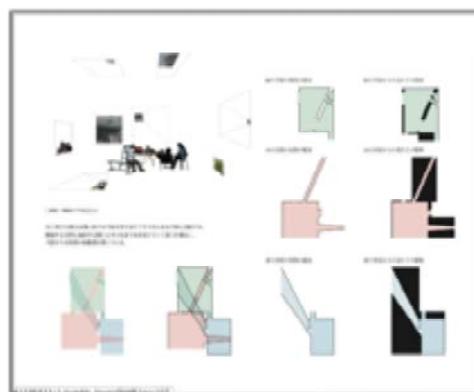
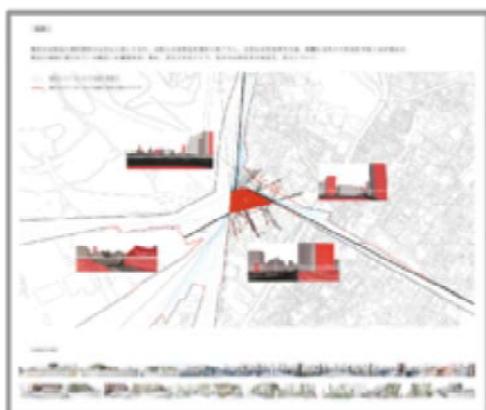
作 品 題 名 : 張りぼてと対

U R L : <http://take-hiko.tumblr.com/>

出 身 大 学 : 東京理科大学工学部建築学科小嶋一浩研究室

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 「建築」張りぼては仮想の壁厚をつくり、その中に対の空間を予期させる。都市の隙間に隠れた距離感を拾い集め、内部に混在させることによって奥を消失し、都市の喧騒を隔てながらも都市とのつながりを持ち続けるアートセンターを設計する。[デジタル化による表現手法]メディアが多様化した現在に、この作品がなるべく多くの人の目に触れられ、関係性をつくっていくことを考え、tumblrという、ブログとミニブログ、そしてソーシャルブックマークを統合したウェブスクラップサービスを組み合わせることでwebページを構築した。ここではTwitterのように他のユーザからフォローされたり、リブログという他人が投稿したポストを自分のページへ再投稿して反映させる機能を活かして、この作品がどれほど他者からの共感を得られるかを観察していくことができる。



DAAS審査評 : 建築に向き合う姿勢は素朴であるが、その取り組みへの執念を強く感じる。ウェブで表現するという手法をたくみに使い、扉を一つ一つ開きながら作者の造形世界へ誘うという古典的な表現を美しく実現している。

作 者 名 : 阿部真理子

作 品 題 名 : <オデッサ> 空間・都市・素材

U R L : <http://marrikoabe.tumblr.com/>

出 身 大 学 : ロンドン・メトロポリタン大学 建築学部 MA Unit10

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 建築のかたちを追求するのではなく、起きていること、空間の雰囲気にも目を向ける。そのプロセスの中で徹底して“手”を使い、ドローイング/模型自体のもつ質感、スタディの課程で起きるアクシデント等を、設計する空間と重ね続けて行く。ハンドドローイングのワークショップ“Spatial Atmosphere”、アーバンスタディ“Walking and urban practice”、コンクリートキャスト“Material Matters”という前半の3つのワークショップを経て、メインのプロジェクトへ向かう。敷地はウクライナの第二都市、オデッサ。19世紀の都市計画によるグリッドと、その背後に存在する多様な中庭空間からなる美しい基盤に、人々は寄生するように生活している。歴史と現在、公と私とが独特の関係を持って生き続ける寄生都市オデッサにおける、新たな中庭空間を考える。住民によって編集されてゆく、半公共の中庭空間である。



DAAS 審査評 : オデッサファイルと名付けられた作品は、大変アナログで手のこんだ手書きの図面をデジタル化し、その技術を駆使しながらデジタル世界でのスムーズな閲覧と検証を可能としている。プロセス重視の設計手法から生み出される建築の提案は、固定化したビルディングタイプの表示としてではなく、社会や芸術の表彰すべき現象として立ち上がってくる。こうした建築の成り立ちへの関心や理解、評価を改めて示すべき作品である。

作 者 名 : 福地佑介

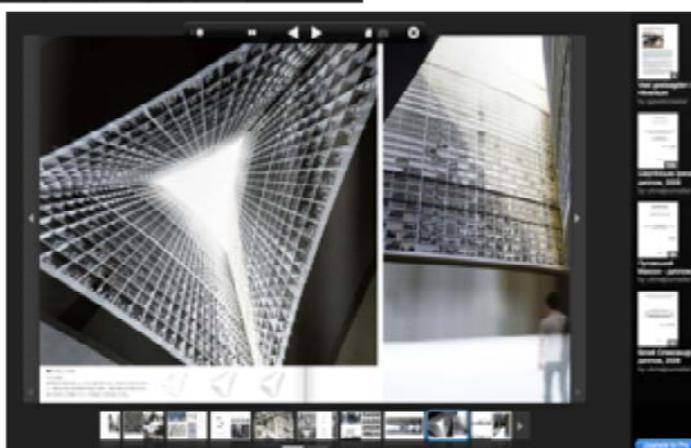
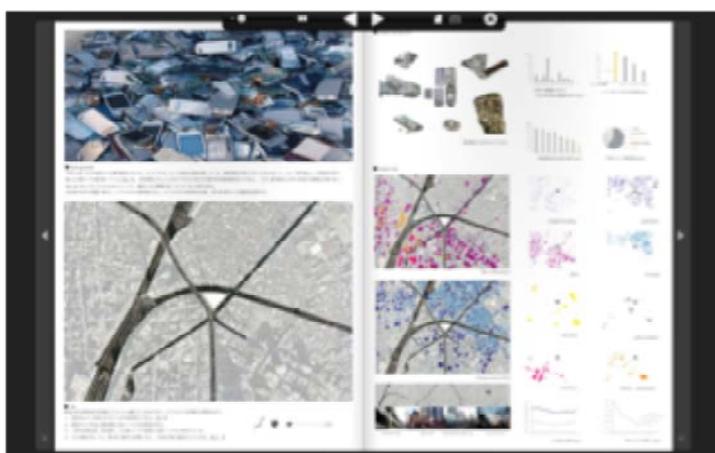
作 品 題 名 : 再生するジャンクション

U R L : http://issuu.com/yusuke_fukuchi/docs/diploma

出 身 大 学 : 千葉大学工学部建築学科栗生明研究室

卒 業 年 : 2010年

作 品 概 要 : 年間2100万台が廃棄される携帯電話には貴重な資源である、無数のレアメタルが存在し、それらは「都市鉱山」と呼ばれる資源の末路であるが、資源の再生は一向に進まない。そこで都市鉱山を集積し、再生し、再び都市に流通させるためのリサイクル施設兼、回収拠点兼、広報媒体としての建築をエンドユーザーが多いとされる高密都市池袋に提案する。3面を異なるインフラに囲まれ、清掃工場が隣接し、周辺と分断された敷地において、「ジャンクション」を挿入することにより、土地の高度化を計ると共に、インフラを利用した効率的な物流、再生の体系を作る。そして両者が共存することにより、再生に関する、多様なスピード感と圧倒的なマスのストックが、都市に、そして人々に浸透していく。やがてレアメタルの再生への啓蒙が進み、都市の各所に再生の輪が整ったとき、レアメタルの壁面は解体され、建築は遊歩道としての機能を残した記念碑的な広場になる。



DAAS審査評 : 高速道路のジャンクションに建築を設定し、場所の意味や形体の現れ方、機能、都市における存在の意義を問うという点では優れた造形感覚を提示しているといえる。ウェブにおける表示のインタフェイスは汎用の技術を転用しているので閲覧をする際の高揚感などにはかけるが。ポートフォリオをとしてのデータやり取りを重視するのであれば、大きな障害になるとは考えられないけれど、インターフェイスの活用については一考の価値があるのではないか。

制定 平成18年12月4日

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム 運営委員会運営等規程

(総則)

第1条 この規程は、建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム（以下「本会」という）規約第36条の規定に基づき、運営委員会の運営に関する必要な事項を定める。

(業務)

第2条 規約第36条の規定に基づき、理事会から委譲を受けた事項について議決する他、本会の運営上必要な事項を審議する。

2 前項の理事会から委譲を受ける事項は次のとおりとする。

- (1)規約第35条に定める委員会の設置
- (2)規約第38条に定める委員会の運営に関する必要な事項の議決
- (3)規約第44条に定める暫定予算の議決
- (4)規約第47条に定める事務局の組織及び運営に関する必要な事項の議決

(構成及び運営委員長等の選任)

第3条 運営委員会は、本会会員が選出する実務者等を委員とし、委員をもって構成する。

2 委員を選出する本会会員（以下、「委員選出会員」という）は(1)から(5)に定めるとおりとする。なお、本会設立時点における委員選出会員は第1回理事会において選任し、運営委員会設置後の委員選出会員は、運営委員会で選任することとする。

- (1)企業会員：本会役員に選任された会員のうち、建設業、不動産業等の業種区分毎に1企業以上より委員を選出する。
- (2)団体会員：各会員より委員を選出する。
- (3)学術・教育機関会員：本会役員に選任された会員のうち、1機関以上より委員を選出する。
- (4)個人会員：本会役員に選任された会員のうち、1個人以上を委員とすることができる。
- (5)特別会員：本会役員に選任された会員のうち、1個人以上を委員とすることができる。

3 運営委員長は委員の中から理事長が指定する者1名がこれに当たる。

4 運営副委員長は運営委員会において互選により委員の中から5名以内で選任する。

5 運営委員長、運営副委員長及び委員は理事長が指定する。

(任期)

第4条 運営委員長、運営副委員長及び委員の任期は2年とする。ただし、補欠又は増員のため選任された運営委員長、運営副委員長及び委員の任期は、それぞれ前任者又は現任者の残任期間とする。

2 運営委員長、運営副委員長及び委員は、再任されることができる。

3 運営委員長、運営副委員長及び委員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(招集)

第5条 運営委員会は、必要に応じて運営委員長が招集する。

- 2 運営委員長が、やむをえない理由により運営委員会を欠席する場合は、運営副委員長が代行する。

(運営)

第6条 運営委員長は、事業計画及びこれに伴う予算に関する書類を作成し、毎事業年度開始前に理事長へ提出しなければならない。

(議事録)

第7条 運営委員長は、運営委員会の審議経過の概要及び結果を記録し、出席委員の確認を受けた議事録を作成するものとする。

- 2 議事録は、事務局へ提出し保管する。なお、本会会員より議事録の閲覧を求められた場合は、事務局において対応するものとする。

(委員会・部会など)

第8条 運営委員会はその下に、本会の運営に必要な目的別の委員会、部会等を設置することができる。

- 2 前項の委員会、部会等において、業務遂行上必要があるときは、更にその下に必要な組織を設置することができる。
- 3 第1項及び第2項により設置した委員会、部会等の構成員は本会会員から選任する。ただし、特に必要があるときは学識経験者、実務者等を委員に委嘱することができる。
- 4 運営委員会は第1項及び第2項により設置した委員会、部会等が必要でなくなった場合は、廃止することができる。

(委員会・部会等の選任)

第9条 前条第1項により設置した委員会・部会等には、第3条、第4条、第5条、及び第7条の規定を準用する。

- 2 これらの規定中「運営委員会」とあるものは「委員会・部会」と、「運営委員長」とあるものは、「委員長・部会長等」と読み替えるものとする。
- 3 ただし、委員および部会員等については、運営委員会の承認のもと本会会員以外の参加を認めるものとする。

(事務局)

第10条 運営委員会、および委員会、部会等の業務遂行上必要な事務があるときは、事務局がこれにあたる。

(規程の変更)

第11条 この規程の改正は理事会の議決を経て行う。

附則

1. この規程は、本会の第1回理事会で承認を経た日より施行する。
2. 本会の設立当初の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、第一回理事会のあった日から平成20年9月30日までとする。

以上

2011 年 9 月 6 日

各位

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

事務局 中田千彦 武藤奈津子

UIA 東京大会 2011
DAAS イベント トークセッション及び展示について

□タイトル(公式プログラム記載名)

「デジタルアーカイブの可能性」:建築・空間デジタルアーカイブスコンソーシアム(DAAS)
Future of Digital Archive : Digital Archives for Architectural Space consortium(DAAS)

□一般広報用サブタイトル

3.11以降の日本の景観*都市*建築のあり方を若手建築家、研究者が提言する
Proposals by Young Architects and Research Specialists Towards Land Scape,
Urbanism and Architecture, After 311, in Japan

□日時等

日時: 2011 年 9 月 28 日 (水) 9:00~17:00

(トークイベントは 11:00~17:00)

場所: 東京国際フォーラムガラス棟 地下1階ロビー ロビーギャラリー1

主催: 建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム

協力: 宮城大学(中田研究室)、首都大学(渡邊研究室)、アーキエイド、他

記録、配信(ustream): mosaki

□トークイベントプログラム

総合司会：坂本和子（建築家）

トークセッション組み合わせ

		話し手	聞き手
セッション 1	11:00~12:00	本江正茂氏	赤松佳珠子氏
セッション 2	12:00~13:00	赤松佳珠子氏	磯達雄氏
セッション 3	13:00~14:00	磯達雄氏	渡邊英徳氏
セッション 4	14:00~15:00	渡邊英徳氏	大山顕氏
セッション 5	15:00~16:00	大山顕氏	倉方俊輔氏
セッション 6	16:00~17:00	倉方俊輔氏	本江正茂氏

□セッションの主旨：

DAAS の資料から事前に関心のあるものを選んでおいていただき、その資料についての意見交換を行います。聞き手が次の話し手となり、聞き手は資料の魅力、価値の所在を話し手から引きだし、次世代に残すべき議論として記録していきます。トークセッションの様子は、**ustream** にて中継致します。本イベントの会場は、一般の方もご覧いただける場所にて行います。

※同日セッション横のブースにて展示を行います。

・被災地写真アーカイブ（アーキエイドリンクプロジェクト）

・バイノーラル・レコーディングによる声の伝承プロジェクト（宮城大学中田研究室）

以上は電子書籍としてDAASのウェブサイトからダウンロードできるように作成し、当日 **ipad** 等で閲覧できるように機器を会場に用意します。

・ 宮城大学復興支援プロジェクト A BOOK OF OUR FUTURE,311 プロモーション

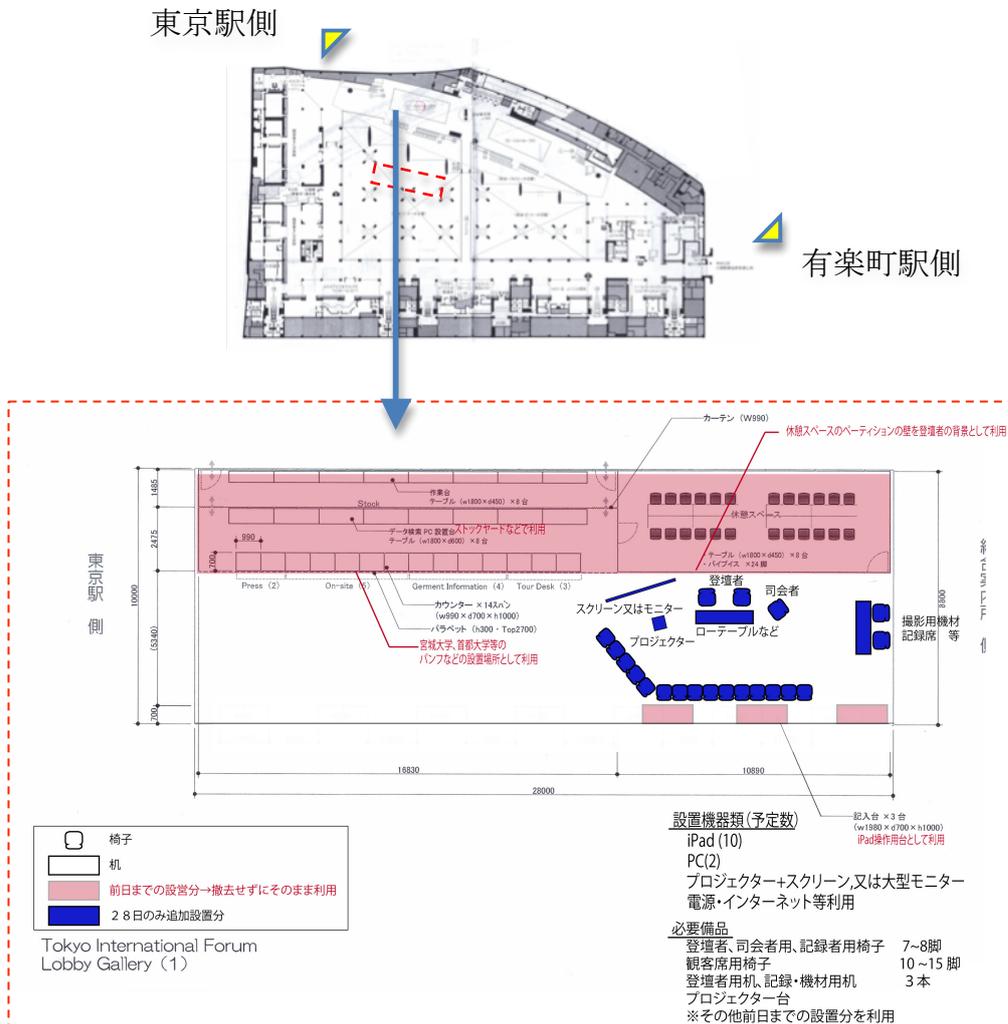
→

・

・ 首都大学東京渡邊英徳研究室 **Google Earth** を利用した被災地情報アーカイブ 他

→<http://labo.wtnv.jp/>

□会場図（東京国際フォーラム地下1階）



□交通東京国際フォーラム

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号

代表電話：03-5221-9000

JR線

有楽町駅より徒歩1分

東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡）

地下鉄

- 有楽町線：有楽町駅とB1F地下コンコースにて連絡
- 日比谷線：銀座駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩5分
- 千代田線：二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分
- 丸ノ内線：銀座駅より徒歩5分
- 銀座線：銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分
- 三田線：日比谷駅より徒歩5分